

提 言 書

松本版コミュニティスクールへの提言

～すべてに対して

やさしくおもいやりに生きる大人へ～^{ひと}

- (1) ビジョンを共有することの大切さ
- (2) コーディネーターの重要性



芳川地区：スクールファーム

令和元年9月30日
松本市社会教育委員会議



まつもと市民生きいき活動

●わたしは
●あなたに
●このまちを
こころをみがき、からだを使おう
あいさつをしよう
きれいにしよう

一人ひとりが あたりまえのことをこつこつと続けて かけがえのないいのち 生きいきとかがやくように…

もくじ

はじめに	・ ・ ・	1
1 現状と課題分析	・ ・ ・	2
2 提言	・ ・ ・	5
(1) ビジョンを共有することの大切さ		
(2) コーディネーターの重要性		
3 実践事例の紹介と、社会教育委員の所感	・ ・ ・	9
おわりに	・ ・ ・	15
20年、30年後の松本がどんなまちになっているか		

資料編	・ ・ ・	16
Ⅰ 社会教育委員会議等の経過		
Ⅱ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価		
Ⅲ 寿小学校「にこにこルーム」現地研修報告		
■ 社会教育委員名簿		

【はじめに】

今期の松本市社会教育委員は4人の新規委員を迎え平成29年10月1日に活動を始めました。

「社会教育」というとても多様な取組みに関して、自分たちがどうかかわって、どう未来につなげていくべきか、委員同士、また地域で社会教育活動に取り組む方々と何度も話し合いを重ねてきました。

私たちがこの活動を続けるにあたり大切にしてきたのは、松本市社会教育委員の先輩方が悩みを話し合い、考え合いながら築き上げてきた次の5つの活動方針です。

- 1 社会教育委員は、教育委員会からの諮問に答申する責務がある一方、社会教育を推進するために施策などを提言することができます。教育委員会の諮問を待つのではなく、委員自ら社会教育における課題を認識し、その課題解決に向けて、現場を見ながら提言していく姿勢が必要です。
- 2 様々な立場からの意見が新しい気付きにつながります。まずは会議に出て、自分の言葉で活発に意見交換を行いましょう。
- 3 いつもアンテナを高くして、現場を見て、どんな活動や課題があるのか感じることが大切です。また研修会や講演会へ積極的に参加しましょう。
- 4 社会教育委員会議で話し合い、気付いた新たな意見をそれぞれの委員さんが現場に持ち帰り、さらに意見交換を深めることができるのは、多くの立場の委員が参加する利点です。
- 5 教育委員会と意見交換し課題意識等を共有化することが重要です。他にも、色々な課題を考える上で生の声を聞くことは大切であり、例えば若い人たちとの懇談会等、こうした機会を積極的に創り出しましょう。

今期の社会教育委員活動を始めるにあたって、最初に意見交換したのは「社会教育委員として何をやりたいのか」でした。多くの意見があげられるなか、今回提言の大テーマでもある「すべてに対して、やさしくおもしろいやり^{ひと}に生きる大人へ」を実現するために大切な営みは「コミュニティスクール」ではないかと考え、話し合いや実地研修を重ねてきました。

コミュニティスクールは、子どもたちの生きる力を育てるだけではなく、かかわっていく私たち大人も含め全員が、学び、育ち、続けていく活動だと考えています。多くの人たちに私たちの考えを知っていただき、地域に当たり前にコミュニティスクールが存在する、そんな未来を実現するために、一緒に一步を踏み出すきっかけとなるように提言書としてまとめました。

この提言がこれからのまちづくりにつながり、社会教育活動の推進に役立つことを願います。

1 現状と課題分析

かつて学校は地域の中心でした。情報の発信地として、地域の歴史・文化の研究拠点として、地域の人材育成機関として機能してきました。学校は地域全てにわたっての拠り所であり、そしてその中心には先生方と子どもたちの姿がありました。先生方は地域の一員として行動し、職員室や宿直室には常に地域の人たちが出入りしていました。地域内では、わが子に限らず悪い事には注意をし、親の叱り過ぎには苦言を言い、子育てが大変な親たちには誰かが手を差し延べていました。そんな中で子どもたちは日々自然に、生活の中で社会のルールを身に付けていきました。

しかし、何時の頃からでしょうか、学校があまりにも多くの「やらなければならないこと」を抱え、先生方が地域に出る余裕も無くなり、学校は先生方が通勤する職場となってしまうしました。地域と学校のつながりは、子どもを通じてかろうじて残されていますが、そのわずかなつながりですら危うくなっています。

学校と地域のつながりが薄れてきた頃と時を同じくしてでしょうか、地域の人たち同士のつながりも、要をなくした扇のようにばらばらと離れ希薄になってきました。

このままでは、人と人とのかかわりを基盤にした社会全体のつながりの希薄化が進んでしまいます。情報機器が驚くべき速度で進化を遂げ、国や人種を超えたネットワーク上でのつながりを常に享受できる世の中になりましたが、人口の都市部集中はますます進んでいます。近所で何が起きているのか、そして、世界で何が起きているのかを、知ることができるはずなのに関心がない…そんな未来に私たちの子どもや孫たちが暮らしていくのは、本当に良い事なのでしょうか。

「すべてに対して、やさしくおもしろいやり^{ひと}に生きる大人へ」

私たち松本市社会教育委員が願う、松本の大人^{ひと}たちがこう育ってほしいというビジョンです。すべてとは、人だけではなく動物や植物、自然環境はもちろん、身近な地域の歴史や慣習、そして「自分」という意味も含まれています。

そんな大人^{ひと}に育つには、かつて学校が地域の中心であったように「コミュニティスクール」の取組みが鍵を握っていると考えます。松本市も「松本版コミュニティスクール」を実施し、市内の全ての公立小中学校で様々な活動に取り組んでいます。

この「松本版コミュニティスクール」は、「文部科学省型コミュニティ・スクール」や「信州型コミュニティスクール」が目指す理念を、松本の地域基盤を担う地区公民館の学校サポート（学校応援団）事業を発展させて、地区公民館長がコーディネーターを務めながら実現していこうというものです。

文部科学省型、信州型、松本版コミュニティスクールの特徴は表1のとおりです。

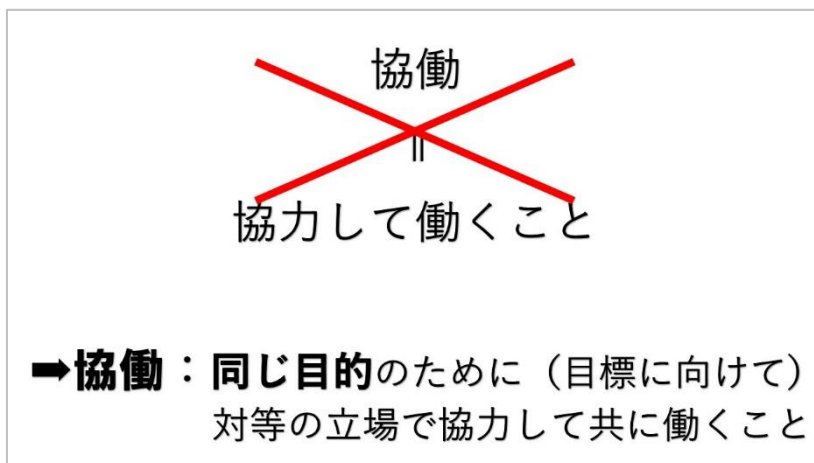
	組織の違い	特徴
<u>文部科学省型</u> コミュニティ・スクール	法律に基づき学校運営 <u>協議会</u> が設置され、委員は <u>市町村教育委員会</u> が任命	協議会委員は <u>教職員の任用</u> に関する意見を述べるができる。
<u>信州型</u> コミュニティスクール	学校ごとに <u>運営委員会</u> を設置（法律の定めはない） 委員は <u>各校校長先生が任命</u>	運営委員は意見交換しながら <u>子どもの育ちや活動等について学校評価</u> を行う。 地域が学校を支援する一方向的な活動を発展させ、学校も地域と <u>協働する双方向的な活動</u> を目指す。
<u>松本版</u> コミュニティスクール	学校ごとに <u>運営委員会</u> を設置（法律の定めはない） 委員は <u>各校校長先生が任命</u>	運営委員は意見交換しながら <u>子どもの育ちや活動等について学校評価</u> を行う。 地域が学校を支援する一方向的な活動を発展させ、学校も地域と <u>協働する双方向的な活動</u> を目指す。 <u>コーディネーターは地区公民館長、コーディネート機関として地区公民館がかかわる。</u>

表 1 各コミュニティスクールの特徴

しかし、関心のある一部の人たちだけの取組みでは、松本版コミュニティスクールが根付いたとは言えません。かつてのように地域に暮らす人たちみんなの中に、コミュニティスクールが当たり前存在するためには、大きな課題が2つ挙げられます。

1つ目は、コミュニティスクールの「あり方」ではなく「やり方」だけを議論する形に陥っているのではという課題です。

どんな子どもに育ってほしいのか、そのために必要な活動は何か、学校・地域・家庭、そして子どもたちの中で、そういったビジョンの共有がなされないまま、活動のやり方だけを多くの人が話し合っても、やらされている一過性のイベントになってしまうのではないのでしょうか。時間に追われるあまり、効率のみを重視し、細かな作業手順を確認するだけの会議が重なることで、より一層やらされている、時間を使わされているという悪循環が生まれます。その結果、そこにかかわりたいという人はさらに減少し、一部の人が嫌々ながら前回やったことを同じように繰り返す「イベント」だけが残り続ける活動になってしまいます。



H30. 12. 1 学社連携・協働フォーラム相田康弘さんスライドより

そして、2つ目がコーディネーターの重要性です。

松本版コミュニティスクールの土台となった「学校サポート事業」は、学校現場からも高い評価があり、「地域と共にある学校づくり」につながる取組みで、この事業の中心となった地区公民館長が松本版コミュニティスクールのコーディネーターとして活躍するのは、まさに松本らしい強みであると思います。

しかし、地区公民館長だけに全てのコーディネート任せでは、いつまでたっても個人頼みの危うい地域になってしまいます。

松本市は35地区488町会からなり小中学校の数も多く、さらに、それぞれの地区に均一に小中学校が設置されているわけではないため、一部の地区公民館長は複数の学校のコーディネーターを兼務することとなり、負担が大きい事が想定されます。このままでは、公民館長が変わるとコミュニティスクールの活動がリセットされてしまう、継続性に課題がある取組みになってしまいます。

そこで私たち松本市社会教育委員は、様々な研修や現場での取組みにかかわる方との意見交換をつうじて、2つの課題を改善するための具体的な提言を次のとおりまとめました。さらに、提言の基礎となるような市内の取組みを紹介し、松本版コミュニティスクールが子どもだけでなく、かかわる大人を含めたすべての人が「すべてに対して、やさしくおもいやりに生きる大人へ」育つ取組みとなるように、まず自分たちから実践を重ねています。

2 提言

(1) ビジョンを共有することの大切さ

コミュニティスクールについて、学校・地域・家庭のさまざまな会議等で情報共有が図られていますが、それはコミュニティスクールで実施する「行事」の手法の確認で終わっていませんか。

学校には「子どもたちをどう育てたい」のか、学校の「教育目標」があります。しかし、それを基に家庭や地域と意見交換はされているでしょうか？また、地域はそれぞれの地域に伝わる文化や伝統、環境を生かして子どもたちにどんなことを伝えられるのか、学校や家庭に提案したことがあるでしょうか？そして、家庭は子どもたちの様子から、学校や地域の皆さんがどんな思いで、子どもたちの育ちにかかわっているか関心を持ったことがあるのでしょうか？

コミュニティスクールが本当に地域に根差したものになるためには、もっと広く多くの人がこの「子どもたちの未来と育ち」について「大きな目標」すなわち「ビジョン」を考え、意見交換をすることこそが大切だと私たちは提言します。

まず、この「ビジョン」が共有されれば、それを達成するために何を活用するかは、地域によってそれぞれの特色を生かした資源が必ず見つかるはずです。逆に言えば、このビジョンが無いまま、他の地域でやっている活動をそのまま取り入れても、やり方だけは同じでも一過性の「行事」になってしまい、学校も地域も家庭もやらされている思いだけが強くなってしまうことにつながるのではないのでしょうか。

この大切な「ビジョン」を共有するには、時間をかけた「熟議」こそが必要です。具体的に行事の進行確認などを行う会議と違い、大きな目標、例えば子どもたちがどんな大人になってほしいのか、また地域のことを理解しコミュニケーションのとれる大人になるにはどうしたらよいのかなど、多様な意見に溢れる会議は時間がかかり遠回りに思えるかもしれません。また、どんな意見を出せばいいのか戸惑うこともあるかもしれません。しかし、ここで時間をかけて目標が共有できれば、一人ひとりが目標と、それを達成するために自分ができること等を認識することができます。そして、学校や地域の課題をみんなが共有し、理解したうえでコミュニティスクール活動を行うことで、主体的に参加する喜びや活力を得ることができ、何かをやろうという時にスムーズに、そして力強く動き出すことが可能になります。

一方的な「学校支援（地域人材の活用等）」の取組みだけでは、従来の「学校サポート（学校応援団）」事業の域を超えることは難しく、松本版コミュニティスクール事業が双方向的な「コミュニティスクール」として地域に根付いていくためには、まず、学校・地域・家庭の三者が、「地域のコミュニティづくり」「地域の子どもは地域で育てる」と

いう視点から子どもたちの教育を考えていく場を持ち、「この地域や家庭で、そしてこの地域の教育の拠点となる学校で、どんな子どもを育てていくことが大事か。そのためには何が必要か。そして、互いが連携して何ができそうか」といった「ビジョン」を共有しながら、次のような具体的な取組みを継続していくことも必要です。

- ① コミュニティスクール運営委員会の委員や、学校サポートのメンバーが気軽に学校に立ち寄れるような環境づくり

例えば ○ 空き教室を利用した「コミュニティスクール事務局」の設置（メンバーが不定期に集う場）

○ 学校に立ち寄ったメンバーは、先生と相談し学校ボランティアとしてできることや、学校が必要としている業務を行うなど

- ② コミュニティスクールの目的や組織、活動内容や成果等を定期的に保護者や地域に発信すること

例えば ○ 市の広報で特集、地区のホームページや通信回覧、学校だよりや学年だよりなどへ活動に参加しているスタッフやボランティアの方々の声・子どもたちの声を掲載したり参加の案内や体験レポート等を掲載

- ③ 「地域コミュニティの再構築」という視点に目を向け「コミュニティスクール運営委員会」と「小・中学校PTA役員」「町会長会」「町内公民館長会」「地区公民館」「地域づくり協議会」等が連携して、松本の子どもたちの、地域の子どもの健全育成をどう進め、地域コミュニティの絆を深めていくかといった情報交換や相談をする場をつくっていくこと。そして、その場をもう一歩先に進めるため、誰でも気軽に参加できる「ビジョン」を話し合う場を作り出すこと

- ④ コミュニティスクールの「やり方（行事の手法や参加人数）」ではなく「あり方（ビジョンの共有）」をどのように話し合ったのか、経緯や地域・学校の背景も含めて事例発表や研修会などを開催すること

そして、各地域・各学校でのビジョンの共有はもちろん、松本市全体としてのコミュニティスクールへのビジョンを共有する機会も必要と考えます。私たちの提言が、この松本市全体のコミュニティスクールビジョンへの、初めの一步となることを願っています。そして、松本版コミュニティスクールが、ビジョンの共有を重要視するきっかけとなり、人に寄り添い、かかわり合う気持ちが芽生え「すべてに対して、やさしくおもしろいやりに生きる大人へ」が実現できるよう、みんなで一緒に今、動き出しましょう。

(2) コーディネーターの重要性

松本版コミュニティスクールでは、土台となった「学校サポート事業」の中心であった地区公民館長がコーディネーターを担っています。

しかし、現状と課題分析でも考察したとおり、たった一人で様々な地域づくりに関する事業を推進しながら、学校や地域、家庭の願いを集約し解決していくことは困難です。また、仮にできる人がいたとしても、任期がくれば別の人が同じように一人ですべてを解決できるとは限りません。そして、多くの人は公民館長頼みでビジョンを本当に自分事として考えることも難しくなります。

そもそも、松本版コミュニティスクールにおけるコーディネーターとは、どんな役割を期待されているのでしょうか。コーディネートとは全体を調整してまとめる、調和させるという意味がありますが、現状で課題となるのは、「全体」の総数が一部の住民や先生に限られていること、そして「まとめる」べき方向性、すなわち「ビジョン」の共有が不足していることにあります。

「ビジョン」共有の大切さは前項の提言にまとめましたので、この項では「主体的にかかわる人を増やす」すなわち「全体」を大きくしていくことが、松本版コミュニティスクールのコーディネーターの重要な役割であると提言します。

地域に学校が「ある」だけでは人と人とのつながりは生まれません。そのつながりを生み出すノウハウは行事や人材の宝庫である公民館が最も得意とする分野です。公民館は、なぜ行事や人材の宝庫になったのでしょうか。それは、公民館には学びやつながりのきっかけがたくさんあり、それが「楽しい」と思う人が集まり、新しい仲間を引き込んでさらに広げていくという営みを絶えず続けてきたからです。公民館の職員はきっかけを作り、人と人とのつながりを助けることでクモの巣を張るクモのような役割を担い、クモが代替わりしても、強固で弾力のあるクモの巣は残り続けるような地域づくりこそが松本の強みです。

松本版コミュニティスクールにおいてもコーディネーターは、先ず公民館のやり方で「楽しい」と感じながら主体的にかかわる人を増やしていくことが大切だと考えます。そのための具体的な取組みとして、学校・地域・家庭に子どもたちの育ちにかかわることの「楽しさ」を公民館があらゆる手段で周知することで、コミュニティスクールにかかわりたい、サポートしたい、けれどもどこに相談したらいいかわからないといった人たちの開拓も可能になります。

学校の悩みを聞いて、地域の人材を探して、日程を調整して、行事を運営するのは地区公民館長が一人でやる事ではありません。公民館が掲げた「子どもの育ちにかかわる楽しさ」に興味を持って集まった人の中には、色々な特技や情熱を持つ方がいるはずです。例えば町内公民館長は地区公民館長にとっても、地域の住民にとっても最も身近な

情熱ある人材です。その人材を人と人との結び目として育成していくことが、松本版コミュニティスクールのコーディネーターである地区公民館長にしかできない事ではないでしょうか。

「コミュニティスクールはこのとおりにやってください。」という固定的なモデルを全ての地区に当てはめるのではなく、その地域の実情や歴史、その学校の特色をいかし、学校・地域・家庭が連携しながら、学校づくり・地域づくりにとってメリットが高まる、持続可能な取組みを行っていくことが「松本版コミュニティスクール」の充実につながると考えます。そのためには、まず、地域の特色を生かした「楽しい」活動と人材の宝庫である公民館が、人を集め育てることから始まります。

そして、学校、家庭も地域にかかわり、多様な人とつながり世界が広がる楽しさを、まずは体験し意識することから始めてみましょう。きっかけはイベントではなく日常的なことでも、コミュニティスクールでつながっていることを意識し始めれば、地域とつながると自分たちも子どもたちも豊かになれるということが実感できるはずです。



楽しさの周知、人材育成、ビジョン共有の熟議といった地道な取組みこそが松本版コミュニティスクールの定着には必要ですが、それにはかなりの時間がかかります。地区のコーディネーターだけでなく、松本市教育委員会全体の松本版コミュニティスクールの「ビジョン」をしっかりと熟議、共有し、自信と信念を強く持って継続することが各地区のコミュニティスクール活動を続けていくためのエネルギーになります。参加人数の大小に一喜一憂するのではなく、何をめざしているのか、かかわった人たちにどんな育ちがあったのか、その育ちをまた次の世代へつなげていくための、評価や検証ができる松本市全体の体制づくりを、部局横断的に進めることも重要だと私たちは考えます。

3 実践事例の紹介と、社会教育委員の所感

この提言に至るまで、松本市社会教育委員は各地区コミュニティスクールの実践の場へ積極的にかかわってきました。また、松本版以外のコミュニティスクールについても様々な研修を行ってきました。

私たちの提言(1)ビジョンを共有することの大切さ、そして(2)コーディネーターの重要性を意識するきっかけとなった市内の実践活動を紹介します。

(1) 寿小学校「にこにこルーム活動」(ビジョンを共有する大切さ)

「にこにこルーム活動」のきっかけは寿地区地域づくり協議会へ、子ども会育成会からの問題提起があったことです。PTA役員の保護者から子どもの居場所(休み時間などに友達の輪に少しなじめない子、こういう子は地域の大人となら楽しく遊べる。そこで楽しさを感じ、また友達の輪に入っていけるお手伝い)活動はできないかという話があったことから、地域で何かできないかをみんなで考え始めたそうです。

はじめは町内公民館を居場所にしたらどうか、放課後の居場所はどうかというアイディアもありましたが、学校と地域の話し合いの中で、学校のニーズは、地域の方が当たり前に校内にいること、そして放課後より昼間にやってほしいなどでありました。そこで、まず、普段使用が少ない教室で、休み時間に実施してみるという現在の形について上田市の神科小学校へ現地研修に行ったり、信大の先生のお話をいただいたりしながら学び始めました。

実際に活動を始めてみて、松本版コミュニティスクールの事業として位置付けることができるのではないかという提案を受け、コミュニティスクール事業の一環として活動を継続しています。

最初に、他の地域でやっているにこにこルームのような活動をやろうと始まったのではなく、家庭からの課題を地域が受けとめ、学校とつながりながら、課題を解決するという目標に向かって、活動の手法を多くの人と協議しながら作り上げていくという形は、まさに「ビジョン」を大切にしながら松本版コミュニティスクールを実践する一つのモデルケースです。毎回の活動後の反省会でも「ビジョン」が共有されているからこそ、どんどん改善していこう、こんな人がいるから参加してもらおうといった意見が活発に交わされていました。

社会教育委員の当日の感想などをまとめた現地研修報告は、資料編43ページに収録していますので、こちらも参照ください。

(2) 白板地区公民館「公民館に泊まろう」(コーディネーターの重要性)

白板地区公民館では、近年ご近所同志の子どもたちの外遊びを見かけることが少なくなったことから、人と人との「生の言葉を介してのふれあい」が無くなってしまったのではないかという課題を解決したいと考えました。

昔は何人かが集まって遊びをすれば、考えの違いから言い合いになることもありましたが、ガキ大将のような年長の子が間に立って、双方が納得するように仲裁をしていました。

こういった、学校や家庭とは違ったつながりの中で共同生活を行うことで、人と人との「生の言葉を介してのふれあい」を体感し、地域という広い居場所に親しんでもらうために「公民館に泊まろう」事業を実施しています。

地域からは、保護者ではなく食生活改善推進委員会や日赤奉仕団、地区体協、町会連合会等にお手伝いをいただき、子どもたちだけで一泊二日の宿泊体験をします。参加の子どもたちは、同年齢の活動が中心の学校とは違った、縦割りの5～6人のチームを作り、年長の子がリーダーを務めます。みんなが自由に発言し、リーダーがみんなの意見をまとめられるように指導者がアドバイスします。食事作りや工作、銭湯での入浴、スポーツ等で人と人との「生の言葉を介してのふれあい」を経験すると、アンケートでは来年も参加したいという声が大半になります。



そして、この「公民館に泊まろう」事業の大きな成果は、子どもたちを見守る指導者に、このお泊り会を卒業した大人・大学生・高校生が参加していることです。この子たちは自分たちが参加した、この体験が「楽しくて」「広めたい」「かかわりたい」ものだと感じています。

この活動は地区内の複数学校の子どもたちを対象にしているためコミュニティスクールの活動に位置付けてはいませんが、子どもたちや地域の皆さん、活動を経験して育った大人たちを結び付けているのは、コミュニティスクールのコーディネーターを務める白板地区公民館長です。コーディネーターはそういった人たちの声を広めることで、かかわる人をどんどん増やし、地域の中で「生の言葉を介してのふれあい」からつながり作りを進め、コミュニティスクールの活性化へとつなげることができるのではないのでしょうか。

(3) 社会教育委員の所感

松本版コミュニティスクールだけではなく、文部科学省型コミュニティ・スクールや信州型コミュニティスクールについても研修を重ね、高野学校指導課長からは元大町市美麻小中学校校長という立場で美麻小中のコミュニティ・スクール活動についてお話をいただきました。

そういった研修などで、各委員から寄せられた感想や生の声には、飾らない大切な思いが詰まっています。ここから次の社会教育委員や市民が新たな課題や取組みを見出す一助として、箇条書きで掲載します。

- 大町市美麻は、地域住民がこのままではいけないと立ち上がったこと、すごいと思います。私の住む町会や地域では、みんなバラバラにあっちこっちに向いていて一つになる事は難しいと感じています。
- 誰しも自分の生まれ育った環境（地域）を誇りに思い、さらに発展（くらしやすさ）してもらいたい気持ちがあります。そうした地域の皆さんの思いがこの取組みにつながっていると思います。
- 子どもが、より多くのことを経験し実践することで、多くの可能性を見いだすことができます。それが自信になり、自己肯定感のもてる子どもになっていきます。
- 家族形態が変わり、価値観やライフスタイルが多様化するけれど、子どもたちが自立して社会人となった時に、人として豊かな心を持ち、やさしく思いやる大人になってくれたらと思います。
- 美麻小中学校の「花豆プロジェクト」ともいえる「美麻^{いちみんか}市民科」の（4代にわたる）8年生・9年生の取組みは実に見事です。「銀座NAGANO」で自作のレシピ集を配布し試食会を開いた生徒たちや地域の人々の誇らしい気持ちは、如何ばかりだったことでしょう。プロジェクトの発端は、「合併で村がなくなってしまう」という大人たちの地域に対する危機感だったのかもしれませんが、それが地域の特産物を学習する生徒たちと一つになり、花豆を真ん中にして、皆（生徒も教員も農家もパン屋も菓子屋も）が真剣に話し合い、知恵を出し合った結果だと思っています。花豆の栽培で大切なのは、風通しの良いことと、太陽の光を求めて勢いよく伸びる



蔓の誘引だそうです。この風通しと上手な誘引はすべてのコミュニティスクールの運営にあたって、大切なことかもしれません。

- 学校が（子どもたちの教育が）地域の人々の意識や出会いをつなぎ、地域の人材を生かし、住民の活力を高め地域を活性化していく拠点となることがコミュニティスクールの目的の一つであると考えられました。
- どの人も、生まれた時から様々なことを自然に学んでいきます。学びは自然な行為であり、人は皆、「なぜ？」という気持ちを自然に持ちます。それが学びの第一歩であるならば、すべての人は学ぶことが好きであるはずです。では、勉強嫌いの子ども、大人が増えているのはなぜでしょう？

学都松本推進協議会の、「学ぶっておもしろい。」、「学びはどこにでもある」のテーマにもあるように、ひとの学びに対する意識を変えていくことが必要と思われます。意識を変えていくというより、本来の姿を取り戻すといった感じでしょうか。生活の中のすべてが学びであるならば、学びは自身が幸せになる手段とも考えられます。すべてに対して、「やさしく思いやり^{ひと}に生きる大人」になるためには、まず、自身が幸せであると感じることができなければ、難しいことです。人が、前向きに「幸せ」に生きていくために、主体的に「学び」、学ぶことを「おもしろい」と感じる「人」を一人でも多く増やしていけるようなコミュニティスクールを作っていければよいと思います。

- 子どもたちへ

「いつでも、出来るけど、やらなければいけない時は短い。」

コミュニティスクールを推進していけば、その先に見えるのは、小中一貫教育になるのではないのでしょうか。何時の時代においても、子どもたちの長所を伸ばすという観点からは、少人数教育が必要であり、特に5年生以降、中学校3年生までは重要であると考えます。やり直しができる、再チャレンジができる事をしっかりと伝えることができるコミュニティスクールを創っていきたいと思います。

- 日本で最も住んでみたいまち「信州松本」へ移住

人口減が進むなかで（少子化＝人口減＝税収減＝自治体の破綻）、一方、情報と移動機能が高速に発達し、情報も物品も即手に入れやすい今日。そんななかで物的充足欲から心的充足欲、お金では換算できない人生観や価値観、生き心地が良く快適な生活を送りたい、そういった幸福意識が高まりつつあります。それはなにも都市部に住まなくても地方でも充分実現可能な時代となってきました。実際地方への移住希望者が増えつつあり、時代は地方の時代へ（地方分散型社会）。しかも活力のあるまちだけが残っていく、そうしたなかで、保護者にとって、次世代を担う子どもの教育は生活の中で大きなウエイトを占めます。これからの時代を生きる

力を育てるため、学校ばかりでなく学校外での学びの大切さに注目し、地域教育という新しい学びの場が提供できる自治体を目指していく時代が来ています。また、教育は生活の全てに絡みます。日本で最も住んでみたいまち「信州松本」（産業、教育、治安、健康、文化、四季と自然資源、挑戦、通信交通）へ移住を合言葉に、教育が「信州松本のまちづくり」の一つの大きな柱になっていくことを願っています。

○ 「急速な人口減少社会の到来、即ち児童生徒の減少」

学校の小規模化が進み、地域によってはその存続が危ぶまれる事さえあります。また、学校施設の老朽化等による、施設の更新期も訪れています。

それも見据えて避ける事ができない再編等も考えながら、コミュニティスクールを考える必要があります。

「すべての子どもにやさしいまち」

松本市子どもの権利に関する条例の前文に宣言されているように、そのためには何をしていくのか？また、学都を標榜する当市として、その理念の基本が、「学び続けるまち」「共に学ぶまち」「次代に引き継ぐまち」であるように、それを具現化し発展させていく方法論としてコミュニティスクールを考えます。

現在、市内の各小中学校においては、公民館を主体とするコミュニティスクールという運営体があります。しかし、これからの施設再編なども見据えた時、本来のコミュニティスクールとしては、機能を発揮できないのではないのでしょうか。

「中学校連携型小学校としてのコミュニティスクール」

学校ごとのコミュニティスクールとして考えると、教育の一貫性が保たれない故に、中学校進学を見据えた小学校のコミュニティスクール化が必要であると考えます。

中学校区で一つの学校運営協議会を設置することにより、特に複数小学校から進学先となる中学校の運営の特徴化を図るべきです。

「30年先の松本市の教育へむけて」

市の共通ビジョンを踏まえ、地域の意向を学校運営に生かしながら、教育の公共性と地域性を加味しつつ、機関としてのコミュニティスクールを立ち上げそこに集うことによって、居場所であったり、縦横斜めの関係性であったりと、チーム学校としてコミュニティを完結させることが、これからのまちづくりに必要ではないのでしょうか。

「行きつくところは小中一貫教育」

それらを総合して考えれば、結果として、小中一貫教育に行き着くのではないかと考えています。

今後、学校施設や社会教育施設の更新時には財源不足が見込まれ、なにより、少子化により、施設に余裕が生まれてきます。さらなる少人数教育を導入しながら、そこで縦横斜めの関係を構築できる学校運営態勢が、これからの社会には必要ではないでしょうか。



【おわりに】

子どもの時に、ふるさとに誇りや関心を持って育った子は、その地を後にしても30～40歳代になると、生まれ育ったふるさとへ帰って来る確率が非常に高くなるという研究結果があるそうです。

社会教育委員として地域の活動にかかわるなかで、小学生のお子さんたちからこんな質問をうけたことがあります。

「この地域にどんな夢を持っていますか？」

その時、私はこんな想いを伝えました。

「あなたが中学校・高校へと進み、もっとたくさんの事を学びたいと大学へ進学するなどして、ふるさとを離れることもあるでしょう。でも、お祭りや地区の行事には帰って来る、そしていつか親になっても子どもを連れて戻って来てもらえる、そんな地域をみんなで作る事が夢です。」

私の住む地区では、ささやかな夏祭りですがその風習が長年にわたって引き継がれています。最近、夏祭りのために帰郷する若者や、結婚して他の地区へ移り住んだ方たちが戻ってくることが多くなってきたと感じています。何十年にもわたった地域での子育てが実を結びつつあるのでしょうか。

ある研修会の分科会で、約30年後の未来「2050年を想像する」というテーマでの意見交換がありました。いろいろな立場の方が参加していましたが、皆が口をそろえて30年後にも残っていてほしいものとしてあげたのは、地域の絆と伝統でした。この絆と伝統を守りつないでいく人材とみんなの心を育てていくのが「コミュニティスクール」ではないでしょうか。

松本版コミュニティスクールで、人と人とのかわり合いの中で育った子どもたちが、一緒に活躍する大人たちの背中を見て、「すべてに対して、やさしくおもいやり^{ひと}に生きる大人へ」と育ち、自分も大きくなったら子どもを松本市で育てたいと思ってくれるように、私たちも様々な立場の人が一緒に楽しみながら学び、育ち続けていきましょう。

「コミュニティスクール」が、学んで幸せ、教えて幸せ、一緒に何かをして幸せ、そこにいるだけで幸せと、幸せな気持ちが循環していく社会の架け橋になることを望みます。

資料編

I 社会教育委員会議等の経過（平成29年10月から令和元年9月）

(1) 平成29年度（平成29年10月から平成30年3月）

	会議	期日・会場	内容
1	第48回関東甲信越静社会教育研究大会（静岡大会）	29. 11. 16 ～17 静岡県沼津市	大会テーマ 社会教育で広げよう 人の和 地域の輪 シンポジウム 未来へつながる地域をめざして 分科会 ・学校・家庭・地域連携のあり方 ・家庭教育支援のあり方 ・社会教育委員のあり方 ・地域社会のあり方 ・社会教育施設のあり方
2	学社連携・協働フォーラム	29. 12. 2 県総合教育センター	パネルディスカッション やまぐち型地域連携教育から学ぶ
3	中信地区社会教育委員連絡協議会第3回理事会	30. 2. 16 松本合同庁舎502会議室	■協議事項 1 県理事会報告 2 秋の研修会反省 3 平成29年度の事業反省及び決算の見通しについて 4 平成30年度の事業計画及び予算の見通しについて（含む秋の研修会（安曇野市）開催時期、長野県社会教育大会事例発表担当） 5 平成30年度中信地区社会教育委員連絡協議会総会及び研修会について 6 平成30年度役員体制について 7 平成30年度関東甲信越静長野大会についての協賛金集めの中間報告と当日の動向

(2) 平成30年度（平成30年4月から平成31年4月）

	会議	期日・会場	内容
1	第1回臨時社会教育委員会	30. 4. 13 大手公民館視聴覚室	■協議事項 1 社会教育委員の活動について
2	第1回社会教育委員会	30. 4. 25 大手公民館視聴覚室	□点検・評価活動 平成29年度教育委員会各課の事務事業報告に対するヒアリングと外部意見の提案（学校教育課、学校指導課、学校給食課、生涯学習課・中央公民館、中央図書館） ■協議事項 平成30年度社会教育委員会活動の方向性について
3	中信地区社会教育委員連絡協議会第1回理事会	30. 4. 25 松本合同庁舎502会議室	■協議事項 1 平成30年度役員について 2 平成29年度事業報告及び決算報告 3 平成30年度事業計画及び予算案の

			審議と負担金の納入について 4 総会及び研修会について 5 活動事例34集の作成について 6 秋の研修会について 7 ブロック研修会について 8 県及び全国・関ブロ関係 9 平成30年度関東甲信越静社会教育研究大会について
4	第2回社会教育委員会	30.5.14 教育委員室	□点検・評価活動 平成29年度教育委員会各課の事務事業報告に対するヒアリングと外部意見の提案（教育政策課、文化財課、松本城管理事務所、美術館、博物館） ■協議事項 平成30年度社会教育委員会活動の方向性について
5	中信地区社会教育委員連絡協議会総会及び研修会	30.5.30 県総合教育センター	◇研修 「みんなの学び」～共に学び合い、共に価値を創る～ 講師 県文化財・生涯学習課 企画幹 木下巨一さん 「木祖村型コミュニティスクール～木祖中学校おとりの時間～」 発表 木祖村事務局 下條久佳さん
6	第3回社会教育委員会	30.6.4 大手公民館講義室	■協議事項 1 点検評価に向けた評価意見のとりまとめ 2 コミュニティスクールについてフリートーク
7	長野県社会教育委員連絡協議会総会	30.6.20 県総合教育センター	◇講演 学びがあふれ自治がみなぎる長野県のあり方とは～社会教育に期待すること～ 講師 船木成記さん
8	第4回社会教育委員会打合せ	30.6.422 寿小学校	寿小学校「にこにこルーム」実地研修事前打合せ
9	中信地区社会教育委員連絡協議会第2回理事会	30.7.6 Mウイング3-2会議室	■協議事項 1 県理事会報告 2 総会及び研修会の反省 3 ブロック研修会の計画について 4 秋の研修会概要について 5 連絡・その他 学社連携・協働フォーラムについて
10	第4回社会教育委員会	30.7.13 寿小学校	寿小学校「にこにこルーム」実地研修
11	第5回社会教育委員会	30.8.8 教育委員室	■協議事項 1 コミュニティスクール研修まとめ 2 提言に向けたテーマの検討 3 次回以降の研修、研究内容について
12	中信地区社会教育委員連絡協議会 秋の研修会	30.10.15 明科公民館	◇事例発表 1 「気よりがいって何ずらか」～安曇野市下押地区における公民館活動報告～ 下押野地区公民館

			矢花幸雄館長、太田雅司主事 2 「旧国鉄篠ノ井線廃線敷の紹介」 ケヤキの道小林松治会長、小林忠孝顧問 宝喜吉会員
13	第49回関東甲信越静社会 教育研究大会（長野大会）	30. 11. 15 ～16 長野市	大会テーマ 信州で 出会い・ふれあい・学びあい ～皆で語ろう 地域づくりは人づくり～ 基調講演 「人と地域が育つ社会教育の役割」 講師 佐藤 一子さん パネルディスカッション 「連携・協働による未来志向の社会教育 のあり方を考える ～持続可能な地域 コミュニティを目指して～」 分科会 ・学校・家庭・地域の連携と社会教育の あり方 ・公民館活動と社会教育のあり方 ・福祉教育と社会教育のあり方 ・社会教育委員の役割と社会教育のあり 方 ・未来の地域づくりと社会教育のあり方
14	学社連携・協働フォーラム	30. 12. 1 県総合教育センター	◇講演会 「地域に開かれた学校」から「地域とと もにある学校」へ 講師 文部科学省生涯学習政策局社会教 育課専門職 相田康弘さん
15	第6回社会教育委員会	30. 12. 11 教育委員室	■協議事項 1 コミュニティスクールについて意見 交換 2 提言に向けたテーマの検討 3 次回以降の研修、研究内容について

(2) 令和元年度（平成31年4月から令和元年9月）

	会議	期日・会場	内容
1	第1回社会教育委員会	31. 4. 24 教育委員室	□点検・評価活動 平成30年度教育委員会各課の事務事業 報告に対するヒアリングと外部意見の提 案（松本城管理事務所、学校教育課、学 校指導課、学校給食課、生涯学習課・中 央公民館） ■協議事項 平成31年度社会教育委員会活動の方向 性について
2	中信地区社会教育委員連絡 協議会第1回理事会	31. 4. 24 松本合同庁舎402会 議室	■協議事項 1 平成31年度役員について 2 平成30年度事業報告及び決算報告 3 平成31年度事業計画及び予算案の 審議と負担金の納入について 4 総会及び研修会について

			5 活動事例35集の作成について 6 秋の研修会について 7 ブロック研修会について 8 県及び全国・関ブロ関係 9 平成31年度長野県社会教育研究大会について
3	第2回社会教育委員会	元. 5. 17 教育委員室	□点検・評価活動 平成29年度教育委員会各課の事務事業報告に対するヒアリングと外部意見の提案（教育政策課、中央図書館、文化財課美術館、博物館） ■協議事項 令和元年度社会教育委員会の活動について
4	中信地区社会教育委員連絡協議会総会及び研修会	元. 5. 24 県総合教育センター	◇研修 「もうひとつの公共」～市民社会の力が問われている～ 講師 昭和女子大学グローバルビジネス学部 特任教授 興柊寛さん ◇松本市事例発表 「松本版コミュニティスクールに対する提言」 発表 松本市社会教育委員 西口恵利子議長
5	第3回社会教育委員会	元. 6. 13 大手公民館視聴覚室	■協議事項 1 点検評価に向けた評価意見のとりまとめ 2 コミュニティスクールへの提言書作成に向けて
6	長野県社会教育委員連絡協議会総会	元. 6. 19 県総合教育センター	◇講演 「令和へ引き継ぐ信州の社会教育」 講師 信州大学教育学部 西一夫教授
7	中信地区社会教育委員連絡協議会第2回理事会	元. 7. 5 Mウイング3-2会議室	■協議事項 1 県理事会報告 2 総会及び研修会の反省 3 ブロック研修会の計画について 4 秋の研修会概要について 5 連絡・その他 学社連携・協働フォーラムについて
8	第4回社会教育委員会	元. 7. 16 市立博物館講堂	◇研修 「コミュニティスクールについて」 講師 松本市学校指導課 高野毅課長（元大町市立美麻小中学校長）
9	第5回社会教育委員会	元. 8. 22 大手事務所会議室A	■協議事項 松本版コミュニティスクールへの提言書について
10	第6回社会教育委員会	元. 9. 10 教育委員室	■協議事項 松本版コミュニティスクールへの提言書について
11	長野県社会教育研究大会	元. 9. 19 県総合教育センター	テーマ 「人づくり・地域づくりの実践から未来志向の社会教育の役割を考える」

			事例発表 泰阜村 「泰阜村で育つ」 生坂村 「地域づくりにおける生坂村の社会教育委員について」 分科会 1 つながっていく川上村のコミュニティスクール 2 南箕輪村の「神子柴かま塾」の活動について 3 泰阜村で育つ 4 地域づくりにおける生坂村の社会教育委員について 5 信濃町の通学合宿について 6 社会教育と社会教育委員の役割（社会教育委員入門）
12	第7回社会教育委員会	元．9．30 教育委員室	■協議事項 松本版コミュニティスクールへの提言書について

Ⅱ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

社会教育委員による教育委員会各課事務報告への評価意見

(平成30年度)

1 教育政策課

(1) 総合教育会議の運営、(2) 開かれた教育委員会への取り組み

- 乳幼児期の子育てに関する愛着形成の問題は深刻な状況だと思います。スマートフォンなどは便利ですが課題も多くあります。子育て中のお父さんお母さん方に対して、早い段階から（母子手帳を渡す時や、妊娠届提出の際等）子どもと目を合わせる大切さを周知したり、チラシだけでなく保健師さんとの相談時に時間をかけてお話しいただくなどの取り組みを、こども部・健康づくり部と連携してこれからも続けてください。また、総合教育会議の議題を、地区の皆さんと語る会でも扱うなど、重要な課題について広く市民全体で考える仕組みづくりをお願いします。

(2) 開かれた教育委員会への取り組み

- 地域や学校の現場で生の声を聞くことはとても大切だと思いますので、引続き現場へ出向いて懇談会を実施してください。実施回数の増加もお願いします。また、地区住民との懇談では地区の役員だけでなく、地区の住民であれば誰でも遠慮なく参加できるよう、周知等に工夫をしてください。

(3) 学都松本の推進

- 学都松本フォーラムについて、めざすまちの姿やテーマとのつながりがわかりにくい内容もありました。「学都」の主旨をはっきり示して、内容の濃い催しにしてください。参加者が少なく感じますので、多くの世代の方に参加してもらえよう周知の工夫をお願いします。
- 「岳都」「楽都」と連携する企画があってもいいと思います。

(4) まつもと市民生いき活動の推進

- あいさつ運動や子どもの見守りなどをされている方でも、この活動を実践していると意識している方は非常に少ないと思います。活動の主旨をしっかりと伝えてください。そのためにカードやリーフレットの作成配布だけでなく、反応や効果の検証も行ってください。

(5) 教育文化センター運営整備再構築事業

- 興味を持った子どもが安心して気軽に行き来できる公共交通機関の整備が望ましいです。例えば車の無い人もタウンスニーカー等で松本駅から行けるようになると良いと思います
- JAXA・国立天文台ツアーは夢があって大変良い事業だと思います。もっとたくさんの子どもが参加できればと思いますので、修学旅行に組み込むなどの連携ができないか検討してください。
- 宇宙を中心に子どもも大人も楽しめる科学館にしてください。また、科学の楽しさを学び、興味の持てる学習内容を提供できる施設にしてください。特に展

示等は地元企業に最新技術の展示を提供してもらうなどの手法も検討してください。

重点目標以外

- キッズ&ユース、コズミックカレッジ、PDCAサイクル他、事前の説明なしにはわかりにくい単語が多いです。公開を前提とするならば平易な言葉使いや用語解説を付けるなどしてください。

2 学校教育課

(1) 小中学校施設整備事業

- 学校の校舎・校庭は、災害発生時の避難所として頼られています。いざという時には、児童生徒や先生方の安全確保はもちろん、地域住民の避難所としても機能確保ができればと考えます。校舎全体の安全性はもちろんのこと、例えば体育館と一部教室を避難所として運用できる機能や、発電機などライフラインについても危機管理部などと相談しながら検討してください。
- 宮城県大川小学校の高裁判決は、災害予見可能性について市、県に過失を認めるものです。そういったことで子どもの命が失われることがないように、市内学校の消防計画、避難誘導計画などマニュアルの点検をお願いします。
- 学校の施設整備で、特に夏の教室の温度管理等も検討してください。

(2) 就学援助制度の新入学用品費支給額の見直し検討

- 就学援助の増額、範囲の拡大は非常に良い事だと思います。支給時期の前倒しも、現場にあった良い変更だと思いますので、引続き実施してください。就学援助が必要な方が漏れる事無く援助を受けられるように、周知をお願いします。

(3) 奨学金制度の拡充について

- 奨学金制度について他市の状況を調査研究してとありますが、他市と横並びにするのではなく、その研究をもとに当市としての積極性を持ち充実させてください。学びたい子どもに学びたい教育を。
- 償還免除要件の拡充について、同一職場で働くという条件を緩和したようですが、なぜ緩和しなければならないか、その要因を分析し解決することも必要です。経済的な理由で学べないことは救済してほしいのですが公正な運用と適切な利用となるように周知や説明を工夫してください。

重点目標以外

- 教職員の健康管理を目的とした、ストレスチェックの個人回答を紙ベースからネット対応に切り替えたとの事ですが、それでも回答率は100%にならない様です。負担のかからない方法も大事ですが、100%に近い回答があつてこそ健康管理が出来ると思います。もう一步踏み込んだ対策をお願いします。また、最近の報道で奈川小中学校の校長先生が勤務時間のチェックをタッチパネルでタッチするだけで管理できるソフトを開発して利用しているという記事がありました。ストレスチェックにしても勤務時間の入力にしても簡単で負担の

かからないものにしないとなかなか取り組んでもらえないと思います。チェック後のケアにつなげる対策も引き続き検討してください。

- 子どもたちのランドセルが従来より大きくなり、今までのように棚に置くことが難しく、はみ出てしまうと聞いています。備品の更新の際には、安易に従来どおりの仕様とするのではなく、現場や子どもの声を取り入れてください。

3 学校指導課

(1) 家庭・地域と学校の連携推進

- 松本版・信州型コミュニティスクールは、内容等の認知度が低いと思います。また、地域によって活動状況や取組みの意識に差があるように感じます。それぞれの地域の特色を生かした活動ができることがメリットですが、きっかけとなるような共通の取り組み事例などで地域の方の理解を深めてもらうことも必要ではないでしょうか。地区の学校が1校の場合は、割合スムーズに取り組めると思いますが、地区、学校がまたがる場合の対策、支援が必要だと思います。また、国立や私立の学校についても連携ができることを検討してください。
- コミュニティスクール事業はだいぶ活発になってきましたが、まだまだ地域差を感じたり、家庭・学校・地域の三者の意識共有に課題があると感じます。家庭、学校、地域の三者で話し合う場を運営委員会以外でも設けてください。
- 「生涯学習課の学校サポート事業とコミュニティスクール事業の予算を一本化し、学校側の手続きを簡略化する」は、先生方の負担軽減に向けて前進だと思います。しかし、事業の周知や、関係者への連絡体制などで、学校と公民館の連携がスムーズとはいえない状況もあります。実際に動き出して気付く課題なども多くあると思いますので、課題の集約・改善策の研究・関係者への周知などを各課と連携しながら進めてください。

(2) 幼保から小学校・中学校への連携の推進

- 中1ギャップの解消などがメリットとして挙げられている、小中一貫校について研究してください。近隣では大町市美麻小中学校の成功などもあります。

(3) 元気アップ事業の推進

- 小学生の体育の授業で運動の基本をしっかりと教えてください。正しい体の使い方を小さいときから学ぶことで、けがを減らし運動が楽しく好きになると思います。
- 「まつもと元気アップ体操」はもっと地域へ出向いてください。地道な継続も必要ですが、成果の発信や、今後どうしていくのか見直しも必要です。

(4) 絆アップ事業の推進

- 子どもの権利条例について、保護者はもちろん地域の大人の理解も必要です。子どもたちに向けても、出前講座などで理解を深めてもらうとともに、不登校など通学が難しい子達の居場所や、子どもの権利相談室などの救済措置を周知して、学ぶ場や交流、安心の場が身近にあることを多くの子ども達に伝えてく

ださい。

- 不登校支援に関して、アドバイザーや指導主事の豊富な経験を生かして、現状の改善とともに未然の防止に力を入れてください。

(5) 学力アップ事業の推進

- 教職員の研修は重要だと思いますが、通常業務プラスの負担にならないように配慮をお願いします。また、日頃の悩みなどをお互いが気楽に話せ、活力アップにつながるような研修を検討してください。そのためには、自主研究という方式も考えられます。自分の興味関心で時間をかけ深く学ぶことは、資質向上につながると考えます。報告などで成果を共有することで業務の一環とするなど、自主的な取組みを推進するような方法も検討してください。

重点目標以外

- 教職員の負担軽減を、事務仕事に追われることなく、子どもと向き合っている時間を増やすことができる体勢作りという視点で考えてください。
- 部活動の在り方について、教職員の働き方改革の観点で、県の指針などを研究し、家庭・地域とともに学校もしっかりと考えてください。先生の個人的な献身で成り立つ部活は、美談に聞こえますが後任者は自らの生活と、業務の板挟みで悩むことになります。競技に特化した大会に勝つための部活は、地域社会に返し学校間の枠を外した地域チームにしていく、体験活動の場としての部活は、土日や長期休み等にコミュニティスクール事業などで地域の活動に参加するなど、それぞれの価値観を尊重した取組みを「松本市ならではの」の指針として研究してください。
- 教科書の大きさや量が増えて、すべてを持ち帰ると大変な重さになるという問題が報道されています。家庭学習への影響もあると思いますが、ルールを押し付けるのではなく、必要なものを自分たちで考えて持ち帰るような、松本ならではの置き勉スタイルを検討してください。

4 学校給食課

(1) 学校給食のあり方について

- 自校給食が財政面や安全管理面で難しい現状です。給食センターのあり方や役割についてしっかり議論して、松本ならではの給食に力を入れてください。

(2) アレルギー対応食提供事業

- 食物アレルギー対応食の解除の対策、クラスの他の子どもと同じ給食が取れる様になれば大変嬉しい事です。地域で伝統食を一緒に作る交流会がありますが、小麦粉・大豆等アレルギーのお子さんは一緒に食べられません。1人でも多くみんなと一緒に食べられるように引続き保護者の理解を得ながら、医師の協力を得て対応を進めてください。

(3) 食育・地産地消推進事業

- 地産地消の推進はぜひ継続して進めて下さい。地元で作ったものという周知を

子ども達へお願いします。地元産の物だと言えば好き嫌いが無くなるかもしれませんが、本当に美味しい物を食べれば好きになる事もあると思います。

- 伝統食の継承のため、地域で伝統食を作って食べる交流をしています。すべての学校で実施は難しいかもしれませんが、そんな食べ物が一品給食に並べばいいと思います。あわせて、伝統食・行事食のいわれや行事の紹介も行うようにしてください。
- 「食育」について、地産地消と同様に大切な柱は、「3度の食事の大切さと楽しさを知る・栄養についての知識を学ぶ」ことだと思います。これは、小学校入学前に家庭で自然に身につくものだと思っていましたが、昨今、なされていない子どもたちが多いことを実感しています。小学校1年生から、栄養の基礎知識がわかりやすく身につくよう、給食の時間をより大切にしてください。
- 食育はとても大切な事なので、栄養士・調理員さんと児童との交流を続けてください。また食育が豊かな心を育むためのものになるように取り組んでください。

(4) 学校給食費に係る会計制度の検討

- 給食費徴収の負担軽減・会計事務透明性、保護者負担の公平性、食材の安定購入等、学校給食に関する諸問題の解決を図るため、公会計への移行を十分な研究後に進めてください。
- 給食費会計の公会計化は、学校の給食費会計担当の負担を少しでも軽減できるものと思います。給食費未納者の増加も予想されますが、是非実現してください。
- 給食費の公会計化について、学校、保護者に負担の無いように実施してください。

重点目標以外

- 子ども達が、「給食美味しかったね」と、何時までも思える（記憶に残る）ような態勢を維持してください。

5 生涯学習課・中央公民館

(1) 子どもと共に育つ地域づくり事業

- 町内公民館、地区公民館で「地域の子どもは地域で育てる」ということを良く聞きます。例えば公民館が放課後の子ども達の居場所になれば災害時においても相手の顔が見える関係性を築けると考えますので、積極的な取り組みをお願いします。
- 【再掲】「生涯学習課の学校サポート事業とコミュニティスクール事業の予算を一本化し、学校側の手続きを簡略化する」は、先生方の負担軽減に向けて前進だと思います。しかし、事業の周知や、関係者への連絡体制などで、学校と公民館の連携がスムーズとはいえない状況もあります。実際に動き出して気付く課題なども多くあると思いますので、課題の集約・改善策の研究・関係者への周知な

どを各課と連携しながら進めてください。

- 学校サポート事業の取組について主事研修会や館長会で成果の共有を図っても、地域住民に共有したことが伝わらなければ意味がありません。様々な研修成果や課題などは多くの人につなげ広げることを意識してください。
- 地域と学校のつながりが良好な地区について、なぜ、その地区は良好な成果があげられるのか、逆にある地区は何故つながりが上手く構築できないのか、について要因やキーポイントなどをしっかり検証してください。またその検証結果を広く伝え次年度の他地区の活動に生かせるようにしてください。

(2) 青少年ホーム事業

- 「成人式」について、スムーズでとても雰囲気良かったと思います。松本市の場合中学校の同窓会的な様相が強いように感じますので、旧交を温める場としても大切な式ですが、他県出身の新成人が遠慮なく参加できる雰囲気作りもお願いします。
- 高校生など若者の育ちについて長野県教育委員会の「高校改革～夢に挑戦する学び～（旧学びの改革）」などを参考に、学校以外で多くの人との関わりから、自らが向上し社会で学べる場を創設するような事業も検討してください。

(3) 「生きる力（キャリア教育）」育成事業のあり方検討

- キャリア教育の普及という当初の目的は達成されたようですが、ここで終わりにするのではなく、第2期として本来のねらいに沿い、視点を変え発展することもあり方としてきちんと検討してください。学校教育に対する下校後の地域教育(学校外での学び)、地域の子どもは地域で育てるという立場で新しい教育プロセスを模索することもできるはずです。庁内の検討で結論ありきではなく広く様々な立場の方の意見を取り入れられるようなあり方検討会を実施してください。

(4) 町内公民館活動の支援

- 最近町内公民館の重要性を再認識しています。しかし町内公民館長さんが地区公民館の行事の手伝いに甘んじている場面も多々見受けられます。町内公民館が地域の文化を担う人材育成とシステムの再構築が必要不可欠です。非常時に町内の人々の安全を担う最前線は町内公民館です。それらを包括した研究をお願いします。
- 町内公民館はこれからの地域社会構築のキーポイントになります。町内公民館はその町内の特徴があり千差万別です。子どもから高齢者までが交流を通してみんなが認知できる最適な場所ですので地区公民館が地域の状況を把握する中で、各町内公民館に寄り添った助言、協力をお願いします。

(5) 施設整備事業

- 地区公民館整備事業について、公民館改修実行委員会を立ち上げるなど、広く地域の皆さんの要望を盛り込めるようにしてください。使いやすければ利用率も向上します。今後も多くの方の要望を反映した改修に努めてください。

重点目標以外

- 人事異動、退職等で公民館長・公民館主事が両方入れ替わる事が有りますが、地区としては相談などで頼る場面も多いため大変です。2人一度に替わるような人事異動は避けるよう配慮をお願いします。又、主事さんの中には公民館で何をやったら良いのか悩んでいる方もいます。地区公民館長さんもそれぞれ特色をもっています。2人の能力を考慮した人事配置や、主事会・公民館長会によるフォローなどをお願いします。
- 中央公民館、地区公民館で大型二輪の駐輪場整備を検討するとともに、自転車の駐輪場もきちんと整備してください。現状では数が少なすぎたり、夜間照明が無い、荷物置き場になっている等で利用者が快適に使えるような状態ではありません。
- Mウイングの2階スペースを活用して、青少年の居場所づくりに向けた取組みを進めてください。その際は前回社会教育委員の提言（ナナメの関係）を生かせるように努めてください。青少年の自立と社会参画を望みます。
- 地区公民館が、ただの貸館やサークル活動の場で終わらないように、地域の学習の場となるような取組みや人材育成などに努力してください。
- 「学びの学校」事業の早期実施に期待します。

6 中央図書館

(1) 学都松本子ども読書活動推進計画の推進について

- 第1次計画がなぜ実行性に欠けていたのかを分析して改善につなげてください。
- 子どもが読書に触れるのはお父さんお母さんの読み聞かせからです。親子の図書館利用がもっと増えるような学都松本らしい計画にしてください。

(2) 中央図書館の大規模改修について

- 駐車場、駐輪場、二輪車駐輪場の確保もぜひ検討してください。
- 子ども達の読書量低下、出版物の増加、民間事業者の運営参入など今日、図書館の抱える課題は多岐にわたります。改修も含めて学都松本にふさわしい図書館にするため、あり方の検討を十分に行ってください。

(3) 図書館コンピュータシステム更新等について

- 図書館のシステムは、誰にでもわかりやすいことが重要です。管理のしやすさより、利用者の使い勝手が大切だと思いますので、慣れるまでは職員から声をかける等、これからも利用者のための図書館を心がけてください。
- 新システムの検索機能が使いにくいと感じています。どのページからもワンクリックで検索画面に行けるようにしてください。またスポンサー制度などを外部事業者に一目で訴えられるようにするなど、使用頻度や重要度に応じたページ構成などを研究してください
- 「図書館だより」にて、昨年度提言をした「予約取り置き期限日の表示」の実現を知り、対応と周知いただいたことに感謝しています。利用者にわかりやすい

お知らせの工夫を引続きお願いします。

(4) 学校司書との連携について

- 子どもの読書量の低下が指摘されています。読書が好きになるには幼児期の本と向き合う姿勢が大切だと思います。小学校の図書館司書さんの研修はあるようですが、幼稚園・保育園の職員さんとの連携も密にするよう努めてください。
- 学校図書館と中央図書館の連携については是非機会のあるごとに実施してください。

(5) 図書館ネットワークの充実

- 大学図書館との連携だけでなく市内小中学校図書館と市の図書館の連携を検討してください。学校に、貸出検索や、貸出端末を備え連携や相互貸出を図ることで、重複蔵書や過剰蔵書を防ぐことができます。なにより、子どもの読書の機会を増やす施策をお願いします。

重点目標以外

- 資料の収集・整理・保存について、文書館や文化財課・博物館・松本城管理事務所等横の連携も大切です。各部門の専門の方と連携をして研究をお願いします。また貴重な資料を間違えて処分してしまわないように基準の明確化等を迅速に検討してください。

7 文化財課

(1) 歴史文化基本構想策定事業

- 策定された歴史文化基本構想について、速やかな目に見える活用を期待します。また、調査した文化財をどうやって守っていくのか、35地区で調査委員会を立ち上げたように、全地区に守る組織の育成が必要と考えます。各地区の組織が連携し、全市的な活動が出来る枠づくりを検討してください。
- 松本市の文化財を小学生にもぜひ知って欲しいので、各地区の文化財を使った地元小学生の学習会なども開催してください。また基本構想ができて終わりではなく、多くの方に興味を持ってもらえるような講演会やウォーキングによる現地見学など、引き続き周知、活用をお願いします。

(2) 白骨温泉の噴湯丘と球状石灰石保存活用計画策定事業

- 白骨温泉の噴湯丘と球状石灰石、そして国内最大規模と推定される石灰華の存在について知らない人も多いのではないのでしょうか。保存と活用のバランスをとりながら、温泉、観光などと連携していくことで「松本市の宝」としての活性化につながります。松本城の外堀復元なども関係課と連携して、文化財を保存するだけではない観光資源、地域の宝としての活用にも期待します。

重点目標以外

- 松本市まちなめぐり案内・史跡マップの案内板がいくつかありますが、中心市街地等の比較的人通りが多い場所に設置されていても足を止める人が少ないと感じます。もっと観光客の方などにアピールする仕掛けを検討してください。例

えば太陽光発電を利用した夜間照明があると防犯にもつながると思います。

- 千鹿頭神社の拝殿が文化財指定された際、記念事業（講演会等）を計画しましたが、文化財課に講師の選定等アドバイスをいただいたり相談にのっていただき助かりました。地域には新しく文化財に指定されたり、遺跡の発掘等があった場合に説明会や講演会等、文化財を広く知らせるための活動がたくさんありますので、今後も広報活動や地域が進める事業への協力をお願いします。
- 島立の合庁線工事に伴う沙田神社参道鳥居の移動要請など、せっかく歴文構想ができてでも庁内で横の連携ができていなければ、大切なものがどんどん失われてしまいます。他にも様々な建設計画があると思いますが、動き出してから一方的に伝えるのではなく、事前に地域への説明や意見を求め、文化財やまちづくりのビジョンを共有した計画を作らなければ、つぎはぎだらけの街になってしまうと思います。文化財課も報告を待つのではなく、積極的な情報収集を業務として位置付けるなど横の連携を密にしてください。

8 松本城管理事務所

(1) 国宝松本城天守耐震対策事業

- 多くのお客様を迎える建物として耐震補強工事は喫緊の課題だと思います。乾小天守を先行させるなど一日も早い工事着手をお願いします。

(2) 市制施行110周年記念事業

- 松本城VRをスマホアプリだけでなく、別の媒体でも楽しめるようにCDでの販売などはできないでしょうか。スマホを持っていない人や高齢者向けスマホ（アプリの追加ができない）の所有者にも楽しんでもらえるような配慮をお願いします。

重点目標以外

- 観覧料の値上げ（見直し）について、観覧者に満足を与える配慮があれば止むを得ない事だと思います。不公平（例えば混雑時に天守に登る人と登るのをあきらめた人が同じ料金になってしまう現状）を感じさせないような、しっかりとした見直しと経過の説明をお願いします。
- 天守へ登れない方（足の悪い方や待ち時間で登ることをあきらめた方）のために、映像で内部の紹介や天守からの眺望を見ることができるような取組みを検討してください。
- 堀の浄化は毎年問題になっているので、改善のために引続き取り組んでください。一時的に浄化するだけでなく、堆積物の流入経路やアオコの発生原因を調査し、定期的に効果的なメンテナンスを行うようにしてください。
- 大型二輪の駐輪場案内をきちんと整備（看板設置やHP）してください。利用状況によっては増設も検討してください。
- 観光ガイドについては、5ヶ国語対応のパンフレットの作成・案内ボランティア2団体の通年化など改善が進んでいてとても良かったです。

- 松本の観光といえば松本城という感があるので、周辺の街並みや庭園を含めて「また来たい」と思ってもらえるものにしていける必要があります。天守だけでなく周辺を含めた整備計画は様々な担当課との横の連携を大切にしてください。

9 美術館

(1) 展覧会事業【鑑賞の場】

- 草間彌生展はとても幻想的で素晴らしかったです。一部の展示について作品に配慮してのことと思いますが順路（出口）の表示がなかったため、どこかに工夫があれば良いと思います。また、G.W. 中は大変盛況でしたが入場待ちもあり、遠方から来られた方は別の日に観覧することも難しいと思います。都内の美術館などでは、混雑が予想される際には入場制限に加え時間制限のお願いやネットで時間予約が出来るなど、遠くから訪れる方への配慮があります。海外の方も多く、訪れた皆さんが楽しめるような工夫があると観光客にも優しい印象かと思しますので検討をお願いします。
- 今年は草間彌生展で観覧者数も大きく伸びると思います。企画展は多くの方が楽しみにしているので、更なる企画を期待します。海外からのお客様も多いと思いますが入館者数等国内、国外別の統計データに基づき必要な案内や、グッズの展開などをPRして行ってください。

(2) 未来の学都を支える子ども育成事業の推進【学習の場】

- 子どもが、友達と一緒に美術館に出かける機会を持つことが、とても大切な経験であると考えます。「草間彌生展キッズギャラリートツアー」のような企画をどんどん増やして行ってください。

(3) 教育普及事業【表現の場】【学習の場】【交流の場】

- 「あそ美じゅつ」はとても面白い企画だと思います。多くの高校生・小中学生が参加できるように広報をお願いします。
- アートカードの活用が効果的に発信されていないと感じます。出張講座を全地区の学校で美術の授業の一環として活用する、またその様子を発信していくなどもっと多くの世代、多くの人に知らせる取組みをお願いします。大きなカードを使った視覚的にインパクトのある周知も良いと思います。

(4) 日本浮世絵博物館との連携【鑑賞の場】

- 「松本ナイトミュージアム」は良い企画だったと思います。実証実験だったようですが、引続き開催できないか検討してください。
- 浮世絵は外国の方の興味を引く内容です。美術館、浮世絵博物館双方に良い効果があるよう、相互協力の方法を更に深めてください。

重点目標以外

- おしゃべりしても良い観覧、少々子どもが騒いでも良い観覧などを研究してください。子育て中のお父さんお母さんが気兼ねなく来館できる、子ども達が作品を見て感想を話し合うことで【表現の場】【交流の場】が生まれるなどが期待

できます。例えば企画展の会期中1日くらい試行してアンケートをとるなど、実践しての評価を検討してください。

- 施設全般に対してですが、大型二輪の駐輪場整備を検討するとともに、自転車の駐輪場もきちんと整備してください。現状では数が少なすぎたり、荷物置き場になっている等で利用者が快適に使えるような状態ではありません。

10 博物館

(1) 基幹博物館整備事業

- 新しい基幹博物館に期待しています。ただ、新しい場所へ新しい建物を建てるだけでなく周辺環境も一緒に考え、松本らしい基幹博物館としてください。楽しみにしています。
- 二輪駐車場の整備、駐輪場の整備もしっかりと検討してってください。大手門駐車場は、子ども用の貸出自転車（すいすいタウン）などもありました。そういったことも引継ぎ、自転車などによる街中回遊の起点となると良いと思います。

(2) 松本まると博物館構想の実現

- 行事食のふるまいサービス、心温まる良い企画でおもてなしの心が感じられます。ぜひ多くの方に 知っていただきたいので広報に力を入れてください。行事食だけでなく、日常的に伝統食等のサービスもあったら良いと思います。基幹博物館のイートインコーナーに松本の伝統食や行事食を提供するコーナーなどはいかがでしょう。
- もっと国内外に観光コースとして発信が必要です。「松本まると博物館」巡りのための循環タウンスニーカーや、県外からの自家用車利用の方に向けたわかりやすい案内板をインター出口のところへ設置する等、交通・観光施策と連携した取組みを検討してください。

(3) 博物館資料の収集・保管・活用方針の見直し

- 「市民からの寄贈等に伴う資料の増加と保管施設の狭域化に対応し、将来にわたって新たな資料の受け入れが可能となるよう」という目的のもとでの、除籍・廃棄を含めた博物館資料の見直しは、合併5地区のその問題と移管まで合わせて考えると、困難を極めると思います。市民からの寄贈等はどのようなものが増加傾向にあるのか分析し、その価値付けや受け入れ、廃棄に対する方針の明確化を早急にお願いします。

(4) 重文旧開智学校校舎保存活用事業

- 各施設の耐震診断、耐震工事を速やかに行ってください。安心して観覧、活用出来るようにしてください。

(5) 旧長野地方裁判所松本支部庁舎保存活用事業

- 松本裁判所の国重文指定は、松本市民の文化財に対する姿勢が評価された気がします。旧松本高校のように市民に活用され守られていくようにしてください。

- 歴史の里の隣に道の駅のような施設を誘致し、松本の特産（食べ物や松本手まり等）を販売するなど、市西部の観光拠点とするようなビジョンも検討してください。

（令和元年度）

1 教育政策課

(1) 総合教育会議を通じた今後の教育のあり方の協議

- 未来を見据えた松本の教育方針について、部局を超えて話し合っていくこの会議の内容を行政だけでなく、家庭や地域まで積極的に発信し、情報を共有できるようにしてください。

(2) 市民と共に教育問題を考える場づくり

- 「子どもとスマホ」というテーマを決めて懇談会を行ったことで、重点的な課題がはっきりするとともに、グループワーク形式を取り入れたことで参加者も意見を言いやすい環境づくりができたと思います。今後は開催地区を増やす等、更なる活性化を目指してください。
- 「共に考える場づくり」が継続、発展することを期待しています。社会教育委員として協力できることがあれば積極的に関わられるような仕組みが作れば良いと思います。

(3) 学都松本の推進

- 学都松本フォーラムの講演会に、子どもが気軽に参加できる講師を招いたのは楽しい試みだったと思います。今後ただ有名な人を呼ぶのではなく、誰にどんな話を聞いて欲しいのか、何を考えて欲しいのかを大切にしてください。また、より多くの参加者が学ぶきっかけとなるように周知方法などをしっかり検討してください。
- 年6回の「教育100年を語る会」の開催は、回数を重ねることにこだわるあまり、マンネリ化したりしないように、内容の精査や回数の減も視野に入れて続けてください。

(4) 新科学館整備事業

- プラネタリウムの更新によって施設全体へ良い効果が波及していると思います。科学展示室等も「わくわくしながら科学する楽しさを味わおう」という基本理念を大切に設備の更新や、担当者の企画力向上に努めてください。
- 交通の便に課題があるため、マイクロバスなど交通手段の整備についても検討をしてください。

重点目標以外

- 食育の関係で「もったいないぞう」の絵本をいただいて学校で朗読をさせていただきました。子ども達にもわかりやすくとてもいい活動だと思いましたので、例えばスマホについてもそういった絵本の作成や、読み聞かせの普及も検討してください。

2 学校教育課

(1) 小中学校施設整備事業

- 子ども達の安全確保のために、学校敷地と外部との接点に防犯カメラの設置を検討してください。プライバシー等の問題も、まずは地域の住民や保護者、学校と話し合いながら始めることが大切です。

(2) 授業用・校務用 ICT 機器整備事業

- 新教育課程に即した ICT 機器やネット環境の整備が喫緊の課題です。1 学級の児童数分のタブレットの確保やネットへの接続設定の整備等が、市内全小中学校同じ条件で授業ができるように迅速かつ計画的に事業を推進してください。
- ICT 機器などの導入は、効果は高いと思いますが、使い方など現場の先生方の意向を踏まえたり、使用においてのサポート体制などを整えないと教員の負担が増加することも懸念されます。専門業者等によるサポート体制の構築も検討してください。

(3) 就学援助制度の新入学用品費入学前支給の実施

- 新入学用品等は、入学前に支給いただけることで負担感を減らせる大変良い施策だと思います。制度が継続できるように、効果の評価等をきちんと分析してください。

重点目標以外

- 夏の猛暑に向けてのエアコン設置等の対策が進んでいることに安心しましたが、なるべく早く全教室への設置等、より一層の充実を望みます。
- 大阪北部地震の後、すぐに鎌田小学校のブロック塀を撤去できたことは良かったと思います。また、ブロック塀の所在地データの共有なども子どもの安全のために対策がなされていると思います。しかし、通学路には危険なブロック塀や倒壊しそう、屋根が落ちそうな建物が多くあります。情報の把握からさらに一步踏み込んで、早急な対応まで取り組んでください。

3 学校指導課

(1) 特別支援教育推進事業（インクルーシブ教育推進事業）

- ここ数年、特別支援教育やインクルーシブ教育への理解や取り組みが確実に進んでいると感じます。市費の支援スタッフ（特支支援員・自立支援教員等）も充実しつつありますが、個別支援を必要とする児童も増加し続け、学校担任への負担（特に午後）はまだまだ重いです。担任も授業のユニバーサルデザイン化や ICT 機器を活用し授業改善を図っていますが、チーム支援を進めるための支援スタッフの充実は不可欠です。半日ではなく終日勤務できる支援スタッフの配置について検討をお願いします。
- 副学籍の導入については、早急にアンケート等実施しインクルーシブ教育の柱として活性化に努めてください。
- 肢体不自由学級の設置検討など、特別支援制度の充実が図られていること、そ

してその制度がまだなくても、先生たちが子どもや家族に寄り添った教育をしていただいていることが本当にありがたいです。これからもぜひこの方針を継続してください。

(2) 学力・体力向上事業

- 学力を伸ばすことばかりでなく、つまずきをなくす方策も重要です。わかった（成功体験）ということは、その子のその後の人格形成に影響があると思います。例えば、小学校時の算数のつまずき、割り算がわからないままいってしまうということは後々の影響が大きくなることが予想されるため、一人一人の子どもに寄り添った学力向上を意識してください。
- 機械的なドリルができて、文章題（思考力）はできません。答えを導く学習だけでなく、考えることの大切さが子どもに育つ学校になるようにしてください。
- 「まっもと元気アップ体操」について、どんなものを一度社会教育委員会でも実践してください。
- 「反復横とび」「シャトルラン」について昨年度同様の課題があるとのことですが、解決に向けての具体的な対応策について、昨年度とは違ったアプローチ等の検証を行ってください。

(3) いじめ防止対策、不登校・引きこもり児童生徒への支援の促進

- いじめの件数が前年度よりかなり増加しているとのことですが、より一層各担当、各所で連携して早期に対応してください。また行政、学校にばかり任せるのではなく、家庭も一緒になって努力していく必要があると思います。関係者だけでなく、広く学校、地域、家庭で考えたり、学んだりする仕組みづくりを検討してください。
- 不登校・引きこもり等の児童生徒を不登校支援アドバイザーとともに、確認、支援していくことが大切です。最近虐待のニュースが一時話題になりましたが、松本ではどうでしょうか。所在不明の児童生徒はいないでしょうか。なかなか把握しづらいとは思いますが、不幸な事件が起きる前に把握し、適切な支援ができればと思います。そのためには、いじめを含め早期の認知がとても重要です。認知件数が増えることが悪い事ではなく、早期に対策を始めている事だという雰囲気为学校・家庭・地域が形成できるようにしっかりと周知してください。

(4) 家庭・地域と学校の連携推進（コミュニティスクール事業を活用した連携の推進）

- コミュニティスクールの推進は、地域住民や公民館等との連携を密にして、広く成果が反映されていくこと、そしてそれが続いていくことを目指してください。
- 地域の子どもは地域で育てるを実践するため、コミュニティスクール事業では異年齢交流（多世代や縦割りクラス）を活発に行うようにしてください。

(5) 教員の負担軽減

- 部活動指導員の課題をしっかりと検証し、積極的な活用を推進してください。

- 教員の負担軽減は喫緊の課題です。本来の教育活動である児童生徒と向き合う時間をしっかり確保してください。また、教員や市費教員・職員の人材確保ができるよう研修制度の充実や連携先の開拓を進めてください。

重点目標以外

- スマホの危険性の周知と正しい使い方の指導について、教育委員会全体でこども部、健康づくり課などと連携しながら積極的に取り組んでください。
- 小学校は一人全教科制ですが、教員には得意不得意があり力量が関係してきます。小学校でも英語教育が始まりますが、中学校の教員が小学校に出向き何コマか授業をすることも研究を進めてください。児童にとっても担任外の教員と関わることで、中学校生活への不安感を減らすことができると思います。
- 家庭訪問について、担任の先生やクラス替えが無ければ実施しないといった学校や、玄関先での家庭訪問という学校もあると聞いています。教員の負担軽減やプライバシー等の課題もありますが、家庭の様子を知ることから得ることもあると思います。学校だけや PTA だけで一方的に家庭訪問のやり方を変えるのではなく、子ども達に大切なことは何か、それにどうやって関わっていけばいいか、といったことをきちんと地域も巻き込んで話し合うようにください。

4 学校給食課

(1) 学校給食のあり方について

- 小学校での会議の折、学校給食をいただく機会がありましたが、出席者の給食の思い出話に花が咲きとても充実した時間になりました。給食のあり方研究として様々な人とうこういった機会を多く設け、学校給食課の方がご一緒頂ければ、広く意見を聞く機会になると思いますので、研究会の進め方や意見を言いやすい場づくりについて検討を続けてください。
- 日常の衛生管理・危機管理に加え、給食のあり方研究会の運営、公会計への準備等非常に多忙だったと思います。少子化の現状も、給食提供数の減少により実感することができました。今後基本構想や基本計画の策定に進む中でも、すべての子どもが美味しい給食を食べられるように引き続き検討をお願いします。そのために職員の人材確保も積極的に働きかけてください。

(2) アレルギー対応食提供事業

- 多くの児童生徒にアレルギー対応食を提供していただいていることに感謝します。また、対応食の解除につながった児童生徒が増えていることもよかったと思います。今後も引き続き対応をお願いします。
- 松本市は食の安全や食育についての意識も高く、アレルギー対応食や除去食においては、他の自治体にはない、きめの細かい対応がなされています。安全・安心・おいしい、そして個の実態に配慮した松本市の学校給食のあり方を大いに PR してください。

(3) 食育・地産地消推進事業

- 子ども達の食育や地場産食材の学習等、学校や家庭だけでなく地区公民館や地域づくりセンターと連携して地域にも発信してください。

(4) 学校給食費に係る公会計化事業

- 給食費の公会計化について、課題等を整理しながら計画に沿って進めてください。

重点目標以外

- 給食は栄養バランスが第一と考えますが、残飯調査の結果なども活用して、食品ロスの削減や献立の検討などに取り組んでください。

5 生涯学習課・中央公民館

(1) 住民自治を基盤とした社会システム構築事業

- 災害時、文化面、福祉面等で町内公民館の重要性が高まっています。しかし、住民主体で町内公民館のそれらの機能が整っている地域はまだ少ないように感じます。町内公民館の育成は喫緊の課題だと考えます。地区公民館が町内公民館とともに育てるように、生涯学習課・中央公民館での研修などの取組みを進めてください。重点目標(4) 町内公民館活動の支援がハード面からの支援に偏らないよう、この目標と連携しながらソフト面の支援を充実してください。

(2) 松本版コミュニティスクール事業

- 松本版コミュニティスクールについて、地域や学校、家庭への周知を積極的に進めてください。特に、今までの学校サポート事業での積み重ねから、どの様に発展させていくのかを分かりやすく伝えることで、関わってみたいと思う人が増えていくことを願います。
- 松本版コミュニティスクールの目指すものは、学校のために何かをするという学校サポートの側面だけでなく、地域のコミュニティづくりのために学校（子ども達）の教育活動が、地域の方々をつなぐ場や機会となる事だと考えます。地域と学校をつなぐ公民館でも一方的な支援にとどまらない、双方向の取組みとなるように研修、研究を重ねてください。

(3) 若者の居場所とキャリア形成事業

- Mウイングスペースの活用について、「検討しました。」ではなく「活用等を検討します。」だけで自己評価Aになるのは認識が甘いと感じます。青少年ホーム事業との一体的な評価であるならば、しっかりと連携してどちらも積極的に取り組むべきです。
- 小中学校において学校に来られない児童生徒や教室に入れない集団不応児童生徒が年々増えています。卒業後の生活や学びを見守るサポートシステムを他課や福祉関係機関との連携の中で構築していくことも必要だと考えます。そのきっかけとなるような取組みについても検討してください。
- 若者の居場所とキャリア形成は今後ますます重要になります。面倒なことを嫌

がる若者たちを巻き込んで、人とのかかわりの楽しさ、活動することの楽しさが実感できる取り組みにしてください。

- 青少年ホームのボードゲームカフェは定着から発展につなげるきっかけとして、大変良い取り組みだと思います。ただ、青少年ホームだけでは、遠方で参加しにくい人もいます。出張開催やMウイングスペースの活用を含め引き続き検討してください。

重点目標以外

- 地区公民館の五部門委員会の活動が、地域に開かれているかをしっかりと検証してください。勉強会・見学会を委員だけで行い、成果の報告や周知がなければ少数の自己満足に終わってしまいます。委員報酬が無くても地域のために活動する委員会がある地区もあります。五部門委員の枠組みの見直しも含め地区の特色を生かした活動が広がるよう検討してください。
- 現在中央公民館以外の地区館は地域づくりセンターと共に地域づくりを進めていく方針だと思いますが、地域づくりセンターの役割と、公民館の役割はイコールではないと思います。それぞれの役割などについて新任館長、主事、町内公民館長会などへしっかりと研修する機会を確保してください。

6 中央図書館

(1) 資料の収集と整理・保存の効率的な管理

- 資料収集について、文化財課・博物館・文書館等との横の連携はどのようになっていますか。松本の資料が統括管理され、全てが一括で閲覧できれば素晴らしいと思います。蔵書数の増加による書庫の狭隘化についてはデジタル化を積極的に進め、閲覧はデジタルデータで、貴重な現物は博物館で保存するなど、基準の早期見直しに努めてください。
- 先日、書庫見学の間機会を得ました。「現施設で収蔵可能な範囲を資料収集の到達点とする」という点について、実感することができました。興味ある市民には、こういう機会を設けることも大切だと思います。図書館の事を良く知って好きになる人を増やせるように頑張ってください。

(2) 第2次学都松本子ども読書活動推進計画の策定

- ボランティアによる読み聞かせの会が積極的に活動している地区では、多くの子ども達が登下校の際に本を携えています。松本市は各地に分館が整備されていますが、図書館の館外での活動も必要ではないでしょうか。職員だけでなくボランティア団体の育成も中央図書館だけでなく分館でも取り組めるような体制づくりや、森の文庫、おひさま文庫のような取り組みをぜひ進めてください。
- セカンドブック、サードブックなど、子ども達が多くの本に触れることができる事業の充実はとても良いと思います。今後も多様な取り組みをお願いします。

(3) 新図書館システムの読書推進機能等の活用

- 県の図書館とのつながりなど松本地域資料の横断検索サービスをさらに広範囲

でできるようになると、新たに対応できる市民サービスなどが生まれる可能性があります。図書館だけでなく様々な資料とつながる拠点として図書館が活用されるような取組みを検討してください。

- 細かな要望にも対応いただき、快適に利用させていただいています。これからも利用者のための図書館を心がけてください。

(4) 団体貸出事業のあり方研究

- 松本市の場合、公民館図書室の利用率が伸びないのは、分館制度がしっかりしているという背景があるかもしれません。図書館だけでなく、団体貸出を行っている施設や団体との意見交換をしながらあり方について研究を深めてください。また小中学校図書館については、機会があるごとに連携しながら「第2次学都松本子ども読書活動推進計画」を一体となって進めてください。

重点目標以外

- スマホ等目的だけを検索する今の情報手段も便利ですが、本に触れる事で予想外の意外な「文字」や「内容」に出会い、気づき、そこから新しい追究が始まると思います。そのためにもお正月に行う「本の福袋」のような様々な本に親しむアイデア、楽しい企画をぜひ実現してください。

7 文化財課

(1) まつもと文化遺産活用事業

- 文化財保存活用についてハード、ソフト両面での支援が、大切な松本の宝を活用していくために必要と考えます。具体的な支援策の検討や相談窓口として今後もよろしくお願いします。
- まつもと文化遺産登録について、関係者やシンポジウムに参加した人だけでなく、広く周知の機会を設けて下さい。

(2) 殿村遺跡史跡整備事業

- 殿村遺跡の報告会、毎回参加させて頂き感激しました。調査を踏まえた今後の研究成果報告も期待しています。

(3) エリ穴遺跡遺物整理・報告書刊行事業

- エリ穴遺跡調査報告書、期待しています。今後の県宝、重要文化財指定に向けた取組みも積極的にPRをお願いします。

重点目標以外

- 文化財保存活動に携わる市民の高齢化と世代交代等々、文化財に関する課題は数多くあると感じます。地道な事業の継続・推進をこれからもお願いします。
- 市民に分かりやすく伝える講座や学習会を企画されとのことですが、興味のない人に訴える方法などをしっかり検討して、多くの人が文化財の大切さを学びたいという場づくりをお願いします。
- 松本のまちづくりの一環や国内外への観光発信のためにも、部局間の横の連携を強化し観光客が回遊できる仕組みづくりを積極的に進めることはとても大切

と考えます。また、それぞれに専門の学芸員を置くことで、見学者にとっては単に見学しただけでなく、対象物の「意味」への理解を深めることになると思います。それは文化のまち松本のまちづくりにつながると思いますので、そういった視点でも教育委員会が積極的に観光行政に参画できる体制を検討してください。

8 松本城管理事務所

(1) 石垣修理事業

- 石垣の修復のために、一部植栽が復旧できない可能性があるのではないのでしょうか。史跡の為簡単に移植できないものではあると思いますが、できる限り復旧する方向で検討してください。桜やケヤキも松本城の景観として大切に思う人はいます。制限も多い史跡や国宝だからこそ、何か大きな事業の際には丁寧な説明と慎重な事業計画を心がけてください。
- 石垣修理等、地元の石工の方が参画することはとても大事です。ぜひ他の技術の継承についても取組みを検討してください。

(2) 国宝松本城天守耐震対策事業

- 文化財防火デーでの取組みなど拝見すると、防火対策もしっかり行われていると思いますが、より一層強化をお願いします。予算等もあると思いますが、耐震も含めて早急に対応し、貴重な文化財が喪失しないようにしてください。

(3) 堀浄化対策事業

- お堀の浄化について、引き続き早期の浚せつ事業に着手できるよう調査を進めてください。松本城を映し出す水がキレイだと松本城の魅力もさらに上がると思います。また、浚せつ後もキレイな水環境を維持できるように科学的な根拠を基に研究を進めてください。平等院鳳凰堂の池の浄化に微生物を利用して成功したという話題もありました。

(4) 松本城魅力アップ事業

- 日本最古の木造の城という話題もあり、松本城の魅力アップ事業等を通して、松本城の魅力をさらに発信して行ってください。
- 毎年開催される「夜桜会」「観月会」は、多くの市民に愛される魅力的なイベントです。今年の「夜桜会」は、開花状況を考慮して期間延長があり、大変有難かったです。今後も柔軟な対応をお願いします。ソメイヨシノの寿命は50年～60年、国史跡のため自由に植え替えができないので、「延命化」の取組みが喫緊の課題だときいています。以前、弘前城の取組みを、NHKの番組で見て、感動したことがあります。そういったことも参考に、市民の誇りでもある桜の名所が消えることのないよう、地道で長期的な取組みをお願いします。
- 鷹狩の事業は松本城の歴史に触れるとても良い機会だと思うので、これからも継続できるようにしてください。
- 最近、史跡や城郭を探訪したり、歴史に関心を持ったりする女性や子ども、外国

人も増えています。歴史的にも文化財としても価値の高い松本城の事を多くの人がわかりやすく学べるような表示や展示、解説等の充実を図ってください。

重点目標以外

- 南・西外堀復元工事の、平面整備への見直しと今後の取り組みについて、様々な困難が予想されますが、市民への丁寧な説明や合意形成の手順を積み重ねながら、最新の法改正なども研究し、色々な可能性を検討し続けてください。
- 旧地方事務所跡地の駐車場が使えなくなるとのことですが、お城の駐車場の確保はできているのでしょうか？混雑時の対応は大変だと思いますが、お城の中だけでなく観光に来た方がまた来たいと思えるような周辺環境づくりに積極的に取り組んでください。
- 最近、たまたま知人二人が松本城ガイドをしていることを知り、ボランティアの輪が広がっているのを実感しました。引き続き、訪れる人も迎える人も松本城を誇りに思える取組みを続けてください。
- 観覧料の値上げは必要だと思いますので、大切な松本の宝を守るため、適切に管理してください。また、安全管理・文化財保護のため混雑はやむを得ないと思いますが、天守に登らない入場券を安く設定するなど、不公平感の無い観覧料の設定を検討してください。
- 松本城の黒の板壁は、これからも国産の漆塗りを続けてください。
- 【再掲】松本のまちづくりの一環や国内外への観光発信のためにも、部局間の横の連携を強化し観光客が回遊できる仕組みづくりを積極的に進めることはとても大切と考えます。また、それぞれに専門の学芸員を置くことで、見学者にとっては単に見学しただけでなく、対象物の「意味」への理解を深めることになると思います。それは文化のまち松本のまちづくりにつながると思いますので、そういった視点でも教育委員会が積極的に観光行政に参画できる体制を検討してください。

9 美術館

(1) 展覧会事業【鑑賞】

- 博物館に武井真澄の作品が多数収蔵されています。松本に関連した先人の作品として美術館でも積極的に展覧会等企画できないでしょうか。草間彌生さんは世界的な芸術家ですが、草の根の作家の発掘も必要です。
- 海外からの観光客が増えている中、草間彌生の作品を見に来る外国人も多いと思われます。パンフレットやリーフレット、ホームページの外国語表記や発信など積極的に進めていってください。
- 観覧者数が最高になったということで、改めて草間彌生さんの作品のポテンシャルに驚くとともに、これから行われる企画展が楽しみです。草間さんの作品だけでなく、多様な文化の発信地としてこれからも色々な企画に積極的に取り組んでください。

(2) 子ども育成及び教育普及事業【表現】【学習】【交流】

- 「アートカード」の活用は子どもが美術に親しむきっかけとしてとても良いものだと思います。今後は子どもだけでなく、地域の大人や若者にも活用する方法を検討してください。

(3) 美術館の大規模改修

- 令和3年度大規模改修工事について、全館休館となると毎年定期的に利用している美術団体には大きな影響が出ると思います。工事期間等の伝達を、なるべく速やかをお願いします。

重点目標以外

- トークフリーデーの試み、まだ館内の様子はあまり変化が無いようですが、展示会の性質にあわせて継続していただければと思います。小中学生だけでなくこども部とも連携して幼稚園保育園のお子さんへの普及事業とすることで、子ども達が美術館に馴染み、トークフリーデーがあれば保護者も一緒に気兼ねなく美術館へ行けるという好循環が生まれると思います。
- 「老いるほど若くなる展」は、受賞者が来館されて自分の作品を説明されているところ等を見る機会があり、とても微笑ましく素晴らしい展覧会だと思っています。特に賞をもらった作品だけでなくすべての作品に選考時のコメントがあって、出展する人にとっても見る人にとっても励みになる素晴らしい試みだと思います。こういったお金をかけないサービスでもお客様の心に響くものがあると思うので研究をお願いします。
- 【再掲】松本のまちづくりの一環や国内外への観光発信のためにも、部局間の横の連携を強化し観光客が回遊できる仕組みづくりを積極的に進めることはとても大切と考えます。また、それぞれに専門の学芸員を置くことで、見学者にとっては単に見学しただけでなく、対象物の「意味」への理解を深めることになると思います。それは文化のまち松本のまちづくりにつながると思いますので、そういった視点でも教育委員会が積極的に観光行政に参画できる体制を検討してください。

10 博物館

(1) 基幹博物館整備事業

- 新しい基幹博物館とても楽しみです。今後も引き続き情報を発信しながら、色々な声を集めて進めていってください。

(2) 博物館資料の収集・保管・活用方針の見直し

- 資料館の統廃合、せっかくの資料がお蔵入りで眠ってしまわないようにしっかりと見直しをお願いします。

(3) 重要文化財旧開智学校校舎保存活用事業

- 旧開智学校国宝指定、大変な朗報です。益々関心が高まると思いますので、耐震工事・誘導路整備等早急をお願いします。

(4) 歴史文化基本構想の実現

- 旧開智学校校舎の「国宝指定」に、祝意とともに一市民として誇りを感じます。私自身もそうですが、「(旧開智学校を) 見学したのは、県外からのお客さんが来た時」という人が多いのではないのでしょうか。市民が建物を外から眺めるだけでなく、その歴史や意味をじっくり「学ぶ」機会を持てるよう、色々な講座などを検討してください。これを契機に、松本城と同様に「市民ボランティア」の活性化や、「市民学芸員制度」にも弾みがつけばと思います。

(5) 学芸員等専門職員採用及び育成の仕組みづくり

- 「松本を愛する若者の充実・育成」は、とても重要な事業だと期待します。専門職の採用については職員課との調整も十分に行い、図書館司書や美術館の学芸員など専門的な知識を持つ職員の育成に向けたきっかけになればと思います。

重点目標以外

- 学校に史料・民具等が保存されているところがあります。保存等の指導や貴重な資料の調査など博物館以外の施設へ積極的に出かけるような試みも検討してください。
- 【再掲】松本のまちづくりの一環や国内外への観光発信のためにも、部局間の横の連携を強化し観光客が回遊できる仕組みづくりを積極的に進めることはとても大切と考えます。また、それぞれに専門の学芸員を置くことで、見学者にとっては単に見学しただけでなく、対象物の「意味」への理解を深めることになると思います。それは文化のまち松本のまちづくりにつながると思いますので、そういった視点でも教育委員会が積極的に観光行政に参画できる体制を検討してください。

Ⅲ 寿小学校「にこにこルーム」現地研修報告

1 現地研修に参加して、一番印象に残ったことは何ですか。

(1) 【ボランティアの皆さんの姿勢】

運営している皆さんのまとまりの良さ。

老若男女の地域ボランティアの皆さんが学校という空間に自然体で溶け込み、多くの児童と一緒に短い業間休み（20分間）の中で楽しいひとときを共有している姿。（児童と地域ボランティアの両者に笑顔がたくさん見られた）＝『双方向の良好な働きかけ』が見られたこと。

- 「季節感を出す」とのリーダーの呼びかけに全員が答えていた。笹舟も当日の発想と思われるが自然と取組みができていた。皆さんの自信感。
- ボランティアの皆さんが目的意識をしっかりとって、主体的に取り組まれている。（組織としての目的・方法が共有されている）学校の教室が開放され、ボランティアの皆さんが安心して利用できる居場所が確保されている。子どもたちにとって充実した休み時間になっている。

(2) 【ボランティアの皆さんの世代の広さ】

ボランティアの中に若い方がいた。

ボランティアさんが高齢者だけでなく老若（少な目でしたが）男女幅広かったことが新鮮な驚きでした。

- 若い方だと災害ボランティアは別として、自分の楽しみの活動（レジャーやスポーツなど）を好む方が多いと思うのだが違った。

(3) 【子どもと大人の双方向な関係】

子どもたちとの会話が一方通行ではなくちゃんと成立していた。

子どもたちが元気はつらつとしていた所。

- お互いの信頼関係が出来ていると子どもとの会話の中で感じました。
- 子どもたちが生き生きしていた。それと大人との会話を楽しんでいたみたい。

(4) 【みんな楽しそう】

子ども達もボランティアの方も笑顔にあふれていたこと

多くの子どもたちが短時間に楽しんでいたこと。

教室に集まった子どもも大人も生き生きとしていて笑顔があふれていたこと。

- 双方とも楽しそうだった。
- 狭い教室でどうなるかと思っていたのですが、139人の子どもたちが20分という限られた時間の中で活動したこと。まるで嵐のようでしたが、どの子も真剣に取り組んでいたのが印象的でした。
- 何年も前から行われているような、何の違和感もなく自然に交流が出来ていることに驚きました。スタートに当たっての長い地道な活動があったと思います。

(5) 【学校の姿勢】

教頭先生の言われた「にこにこルーム」を積極的に拡大するというよりも、選択

肢はあくまでも児童にあるが第一義ですとの言葉が印象に残りました。

ボランティアの皆さんが心から楽しそうに活動されていたこと。学校側の受け入れ体制の良さ。

- ともすれば忘れがちになる大事な正論であると思います。他方で「松本版コミュニティスクール」の目指す理念との整合性を考えたときに、学校側の簡単ではない本音が少し垣間見えた気がしました。(理想を追いすぎでしょうか?)
- ボランティアさんが主体の活動で、学校側が安心して任せている様子がよくわかりました。学校側から信頼されたうえでのボランティアさんの活動は、とても生きいきとしている、とても素晴らしいものでした。

(6) 【その他】

何事も事業は立上げより維持、継続を如何にと感じます。立上げの高揚感の冷めた後は…

外遊びが苦手な子の参加が多いのでしょうか？個人で楽しめる遊びがほとんどでしたが、まとまって楽しめるものもあるといいなと感じました。

- 自分自身の体験からです。高揚感はこちらよいものです。生みの苦しみ、継続の苦しみ、乗り越えればそれは全て人財です。役員さんも任期が終わってもスタッフに残っていただければいいことで、それができる雰囲気こそ人財育成の根本だと思います。

2 にこにこルーム活動についての感想

- 「子どもの居場所」づくりが、学校という環境の中で大人との交流に変わり、子どもたちとのつながりの育成ができていたと感じた。手作りの遊具など皆さんの努力が見えましたし、20分間という限られた時間の中での対応が素晴らしかった。
- 無理をせず継続することが大事ななと思いました。
- 長年にわたって子どもたちの様子や今必要とすること、されること等、皆さんで「子どもたちのために」の思いが形になっている場所だと思います。とても温かいホッとできる活動に優しい気持ちになれました。ありがとうございます。
- 休み時間は子どもたちにとって一番楽しみな時間だと思われそうですが、最近は、何して遊んでいいか分からなかったり、遊ぶ気力がわからずにボーと過ごしたりしている児童が増えてきています。業間休みを利用して、100人を越えるたくさんの児童が通ってくる場所・人・遊びの素材が準備されているという寿小の取り組みは、遊びや生活体験、人間関係づくりのきっかけをつくるという点でとても価値のある取り組みだと思います。子どもたちとボランティア、両者の笑顔がとても印象的でした。
- 優しく接することは、そんなに難しいことではないが、優しく叱る(指導すること)は難しいことです。しかしどちらも総合して行っていないと本当の「絆」は生まれてこないと思います。

- 休み時間と空き部屋利用はとても良い考え方だと思います。それにボランティアの人たちも楽しそうにやっていたのが印象的でした。
- 大人のチームワークが良い。町会長とか公民館長などの参加があり、いいことだと思いますが、人の交代があった時に永続的に続くのか？またはその時には変えてしまうのか気になる場所でした。
- 学校の休み時間の居場所として、ただ居るところではなく、活動できるというメリットは大きいと思う。季節や伝統の遊びから生活体験が増えるのは貴重です。ひも（糸）が結べない子がいることに少しびっくりしました。運営しているボランティアの方々も地域に密着しており、仲間との連携、学校との連携もとれていると感じました。個々の思いもありながら団体として関わっているというのが良いのでしょう。
- 学校と地域がお互いに歩み寄り尊重し合う中で素晴らしい連携がとれている活動だと思います。応援隊の皆さんの子どもたちへの愛を強く感じました。そして子どもたちが地域の大人と関わることで常にやさしく見守られていることを感じると思います。この活動を望む子どもがいる限り続けてほしいと思います。
- 「にこにこルーム」の名前のとおり、子どもも大人もみんなが和やかで自然体でとても良かったです。隔週1回という実施頻度がちょうど適当だからだと思います。校長先生の参加人数に重きは置いていないという言葉にも共感いたしました。
- 学校の中だけの「つながり」ではなく、学校の外でもその「つながり」が続き、また保護者や他の地域の方々へとつながっていることは理想であり、素晴らしいと思いました。
- 私自身子どもとの交流、コミュニティスクール等に以前から携わっていますので客観的に見させていただきました。20分の休み時間に目をつけられたのは感服いたします。その反面、時間的に見て薄い内容になるのは否めません。参加の決定権は子どもにあります。子どもを飽きさせない内容が必要になってくると思います。内容を深くするには場所の広さも必要かもしれません。
- 会場が狭い感じがした。もし空き教室が他にあるのなら隣り合わせで2教室ができるといいと思う。
- 内容が1～3年生向けという印象。4～6年生には何かを作ること（何回か来て1つの作品を完成するような）のほうに興味が出てくるかもしれないと思いました。

3 他地区でコミュニティスクールに関わっている社会教育委員が参考にしたいこと

- 学校の休み時間、空き教室の利用はどこの学校でも可能なアイデアです。活用方法を考えてみたい。
- ボランティアの方の絆もしっかりしていると思いました。反省会がすごく大事だと思いました。
- まずは大人側の目線を子どもと同じにすることが大切なことと改めて納得しま

した。

- 地域の皆さんが三々五々学校に集まれる雰囲気は大変意義のあることだと思います。毎回最初の打合せ、最後の反省会は必要です。回を重ねると疎かになります。
- 「学校に足を踏み入れるのは敷居が高い」と感じている地域の皆さんにとって、ボランティアのメンバーが集まれる空間（居場所）が確保されていること。「にこにこルーム」というネーミングが効果的。児童数減により、通常教室として使用していない教室が有効に利用されていること。
- 皆さんが熱心に参画している姿はとても参考になりました。
- 授業時間を使ってトウフ作りや昔の遊び方を教えてほしいと言われ参加していましたが各2年生の4クラス1回だけで終わりました。今考えるとゆとり教育の一環だったのかと思います。寿のように続けてやれたらいいと思います。
- 私の関わっている地区は小学校が2つ、福祉ひろばも（市内唯一の）2つあるマンモス地区です。「地域づくりという土台があるので」という点においては、元地区役員としてはうなだれるばかりです。
- 学校の受け入れ体制が整っていることでボランティアの方はとても活動しやすいと思います。
- 今回低学年の子どもが大多数でしたが、高学年の子どもたちにボランティアの一端を担ってもらえる様なシステムができ上級生が教えながら遊べれば楽しいと思います。

4 多くの子どもが笑顔で楽しめる、そして地域の人も笑顔になるのに一番大切なことは何だと思いますか？

- 相互の信頼感醸成。子どもたちは自分の好きなことができること、大人たちは子どもたちが喜んでくれること。
- 「顔と顔」（顔なじみ）、知り合い、あいさつや簡単な会話でもいいから言葉のやり取りができること。
- コミュニケーション。日ごろからのあいさつや登下校の時にあったら声掛けをする。
- 思いやりなのかと…お互いを思う心が相手も自分も笑顔になれることなのかなと思いました。
- 子どもが楽しめるためには大人のルールは最低限で、子どもたちが最低限のルールを基に自分のルールで楽しめる状況。
- 双方にとって無理をしないこと、欲張らないこと。（たとえ短い時間であっても、その時に必要なこと、その時できることを欲張らないで長く続けていくこと）目的と手段（方法）について、定期的に見直しをし、状況に合わせて改善していくこと。今ここまでできているから、もっとよくするために、成果（実績）を上げるために、むやみに回数を増やしたり、内容を増やしたりすることは負担感や義務感につながり、本来の目的から逸脱してしまう場合もある。長く継続して行く

ためにも、互いの立場を尊重し、双方の願いや都合を確認しながら進めていくことが大切。

- 決めたことを継続していくことだと思います。
- 心から接していることです。損得を考えず自然に接しているところです。
- 大きな声のあいさつと、偉ぶらずも大人として毅然とした態度で子どもと接すること。叱るときは叱る、ほめるときはほめる。
- 人との関わりの中でお互いの存在感、存在価値を認めあえることとコミュニケーションができること。
- 「子どもは地域の宝」といいます。そして地域の子は地域で育てるそんな思いで寄り添っていくことで信頼関係が生まれると思います。
- お互い目線を合わせることも大事だと思いました。
- 子どもに自分の居場所があり、自分らしくいられること。困ったことがあれば助けてくださいと言える周囲との関係。助けてくれる誰かがいるという安心感。自分も周りの人も、不安や不満が少なく、穏やかな気持ちで暮らせれば笑顔も多くなると思います。

5 地域ボランティアの皆さんの反省会について感想

- 一人ひとりが担当したことに具体的な反省と感想を発表できることが良い。(例えば「あやとり」ととても上手にできた子がいた、おばあちゃんに教えてもらったという。ばあばの力も大事だね。とかひもが長かった1mではなく次は70cmにしよう。黄色のひもが良かったなど。)
- 活動をすれば必ず良かった点と課題が出てくる。良かった点は何か？課題を解決するための案として具体的に何をするか？そんな反省会になればと思います。
- 必ず全員の方が一言話をする。反省を踏まえすぐ次回はこうしようと改めること。毎回かわかりませんが公民館の方や校長先生教頭先生も参加して反省会が開かれていることが良い。
- 短い時間の中でも子どもの背景を捉えているのだなと思いながら聞かせてもらえとても良かったです。
- 役員さん、公民館、学校が主体な感じがしました。何事も始めるときはそうですが、島田委員さんが質問されていましたが、役員主体からボランティア主体への切り替え時が大切かもしれません。役員さんも職域からボランティアになっていただければいいことです。
- 反省会を初々しく感じました。私たちもある面で立ち帰らねばと思いました。
- その日の取り組み(活動)についての振り返り(評価)が、子どもたちの具体的な姿を通して話し合われていた。ボランティアのみなさんの特技や知識・技能を活かした提案や情報交換が活発になされていた。組織運営には、中心になって活動を推進する熱意あるリーダー、多様な分野での経験、知識・技能を有する人材、PDCAサイクルによる活動内容の練り上げ等が必要だと考えられる。反省会に

臨むボランティアの方々の姿から、それらの要素を感じ取ることができた。

- 全員参加しての活発な意見交換が良かった。五月くらいからの本格活動ということで行事をしながら反省をして次につなぐという意味では、これからという感想を持ちました。(半年後、1年後はもっと洗練されていくと思います。)
- お茶を飲みながらみんな楽しそうに会話が弾んでいました。それと人の意見をみんなしっかり聞いて、前向きな意見を述べていたように思います。何をすれば子どもたちが喜んでくれるのかを真剣に話し合っていました。
- 始まったばかりで、立上げメンバーなのでまとまりもよく、意見が活発で聞いていてあつさを感じた。
- 振返り、情報交換、次回の計画等お互いに確認し合うことは重要だと思う。自分の活動以外の様子を認識したりにこにこルームをよくするために献身的な意見等出されていた。今回は何も起こらなかったが、事故等危機管理の認識もきちんとされており、子どもたちと関わる時に重要であると思う。
- その場ですぐ反省会が行われそれぞれの担当から報告があり、良かったこと、改善点などが話し合われ次回に向けての方向性が決められていくことに感心しました。子どもたちの楽しみにしている20分間のために汗だくで頑張っている皆さんにエールを送りたいと思います。
- お茶を飲みながらのざっくばらんさの中にも担当の方からの報告等があり緩急があってとても良かったです。
- 来たい子だけが来れば良い。子どもたちの中に、自分たちはこうしたい、ここへ行きたいという選択があって良い。という教頭先生のお言葉に考えさせられました。

6 その他（自由記述）

- 運営している皆さんに喜びがみえた。子どもたちの笑顔に元気をもらっていた。こんな関係が継続できる寿地区の子どもたち、大人たちみんな幸せ！
- 休み時間のお楽しみに終わるだけでなく次へのステップにつながれば良いと思いました。子どもたちが地域へ出ていくきっかけができればもっと良いのではないかな。
- 冷たいお茶にお菓子まで準備下さりありがとうございました。いつものメンバーではない私たちと自然な会話をされる皆さん方の心配りに感謝します。
- 私の地区ではかなり以前から「子どもは地域の宝」「子どもは地域で育てる」の考えの基に方々で子どもの育成・交流をしております。連合町会、公民館が主導したものではありませんが、地区の有志の方々が会を立上げ現在でもしています。それらの活動を基に子ども育成会、福祉協議会等がより一層活動を行っております。「子どもが必ず帰りたい郷里」そんな地域を目指しています。
- 子どものときに郷里のことを良く学び、郷里を誇りに思う子等は郷里を出てもそこに仕事のあるなしに関わらず40代までに郷里に帰る確率が非常に高い、こん

な統計があります。

- 寿小の「にこにこルーム」の取組は、市内においては先進的であり、大変素晴らしいものだと思います。他校（他地区）でも取り入れていきたい取組ですが、寿地区の地域性や今までの経緯、積み重ねてきた経験とネットワークが基盤となって運営されていると思われます。「市内一律にこのような取組をしましょう」ではなく、その地区（学校）の実態をもとに、双方のメリットになることを相談しながら少しずつ進めること、そして、決して無理をしない（よくばらない）ことが大事になってくると思います。有意義な見学のお機会をもつことができてよかったです。
- 今の（参加者の多くを占める）三年生以下が4，5，6年生になった時にどのくらいの参加があるか見守っていききたい。
- どこの地域もこんな風にやれば素晴らしいと思いました。ただしボランティアをやる人が大勢いるかが問題だと思います。次の世代にスムーズに移行していくのがなかなか難しいと思います。
- 七夕の短冊で特に記憶に残った「みんなのねがいごとがかないますように」「戦争もなくみんなが平和にくらせますように」本人の資質なのか親御さんの教育なのか、寿小学校教育の成果なのか？いずれにしても素晴らしい短冊だった。そのような子どもがたくさん育つと地域がかわるなあと思いました。
- 話で聞くだけでなく、実際に参加させていただき現状が良くわかりました。とても良い活動であると思いますが、全市的に広まっている訳ではない点、要因はどこにあるのか、学校がボランティアを受け入れる課題は何か等検討していくことも必要かと思います。
- 飛び入りの私たちも、心からの「にこにこタイム」を持つことができ、楽しかったです。
- はじめは学校の教育活動の時間内にこのような形でボランティアさんが入っていくことに疑問を感じていました。子どもたち同士が集団生活を学ぶ場に入っていくことは、かえって子どもたちの関心、意識が友達ではない方に向いてしまうのではないかと思ったからです。しかし、ボランティアさんが行ってくれている活動が子どもたち同士のかけ橋になっていることを知れました。

7 現地研修報告まとめ（今後の提言に向けて）

13名の社会教育委員が実際に寿小学校の「にこにこルーム」活動に参加させていただき子どもたちと触れ合う時間をいただけたことに心から感謝いたします。本当に貴重な時間と体験をありがとうございました。子どもたち、地域、そして学校のあの場にいた人すべてが笑顔になる素晴らしい活動だと思います。

また、反省会はすぐその場で行われ、前向きに変えていこうという意見が活発に出されていること、子どもの様子をきちんと確認し心配なことはみんなで共有する仕組みがきちんと整理されていることが素晴らしいと思いました。

今後社会教育委員の提言書作成に向けていくつか大切なことが見えてきたと思いますので、参加委員の感想を下記のようにまとめました。これから社会教育委員で話し合い、テーマに普遍性を持たせ、寿だけでなく松本全体がみんな笑顔で暮らせるまちづくりに向けた提案としていきます。

(1) 寿小学校「にこにこルーム」活動で学んだこと

ア 「学校の目標」と「地域の目標」が一致していて、両者がそれぞれその目標達成のために積極的にできることをやっている。これまでの協力、信頼関係が強固で目指すものを全員が共有できていることで、自分がやれることを提案できる雰囲気があった。この目標が両者できちんと共有されないと「何をやればいいのかわからない」や最悪「そんなことをやられちゃ困る」といったすれ違いが出来てしまう。目標共有のための意見交換の実施には、地区公民館や地域の協議会の役割がとても重要なのだと思います。

イ 反省会を聞かせていただいて、何かこうしたいという思いがある時に、すぐ「あの人に頼んでみたらどう？」という意見がでる雰囲気はすごく大切だと思いました。活動を外へ外へどんどん広げていけることが、多くの人材へ「かかわり」を広げるきっかけとなっているのだと思います。また学校でも教頭先生や校長先生だけでなく日誌で職員間へ情報提供するなど、とにかく前向きな姿勢がとても魅力的でした。

(2) 社会教育委員が提言していくこと

「にこにこルーム」活動は大変すばらしい活動です。体験してその良さも実感できました。しかし、同じような活動を他の地区ですぐ実施できるか？といえは答えはノーだと思いますし、すべての学校が同じ活動をする必要もないと思います。

また、寿小学校のコミュニティスクール活動は「にこにこルーム」だけではありません。それぞれの活動は、寿地区の地域という土台に咲いたきれいな花だと考えます。「にこにこルーム」の手法などを提言することは、花の特徴（花びらの色はとか、香とか）を紹介するにとどまってしまうのではと思います。

学校指導課と生涯学習課が連携しながら、コミュニティスクールの全市的な活性化を進めるためには、まず、寿のような強固な土台作り（土づくり）のコツや苦労したこと、それをどうやって乗り越えたのかということをもとめて、広めていくことが大切ではないでしょうか？「目標の共有」という大前提がないまま、もらった種を土にまいても育て方もわからず、やらされたという思いだけが残る危険もあります。

大切なのは、①花壇全体を見渡して、こんな花壇にしたいねという思いをみんなで考えること（目標の熟議、共有）②目標にあった土をつくること（地域づくり、自分たちの目標に向かって前向きに動くこと）と、③「やろうよ」と言い出す人を増やすこと（リーダーの育成、リーダーが育ちやすい環境づくり）ではないかと考えます。

そういった、今までの大変な積み重ねをしっかりと紹介し、各地区に豊かな土台が整えば、どんな花でも育てられるようになり、各地区の個性も発揮しやすくなるのではないのでしょうか？

そのための、大切なきっかけを今回体験することでいただいたと思います。

松本市社会教育委員名簿

(任期 平成29年10月1日～令和元年9月30日)

区分	氏 名		性別	選出団体等及び役職	備考
学校教育関係者	前任	あかはね さとし 赤羽 聡	男	松本市校長会 (市立開智小学校)	H29.10.1 ～ H30.3.31
	後任	おおた たけし 太田 武志	男	松本市校長会 (市立筑摩小学校)	H30.4.1 ～ R元.9.30
	前任	ほさか みよこ 保坂 美代子	女	中信地区高等学校校長会 (松本美須々ヶ丘高等学校)	H29.10.1 ～ H31.3.31
	後任	きたむら けいいち 北村 桂一	男	中信地区高等学校校長会 (松本蟻ヶ崎高等学校)	H31.4.1 ～ R元.9.30
社会教育関係者		しろき よしお 白木 好雄	男	前町内公民館長会会長	
	長	にしぐち えりこ 西口 恵利子	女	庄内地区公民館 図書・視聴覚委員	
	副	ふるいち しょうたろう 古市 昭太郎	男	前北部公民館長	
	副	はら かつみ 原 勝美	男	今井地区文化財調査委員長	
	前任	あさわ あきこ 浅輪 明子	女	松本市青少年補導委員協議会 研修委員	H29.10.1 ～ H30.3.31
	後任	渡辺 はる美	女	松本市青少年補導委員協議会 会長	H30.4.1 ～ R元.9.30
		しまだ きみこ 島田 貴美子	女	松本市女性団体連絡協議会	
家庭教育関係者		こいわい さとみ 小岩井 里美	男	松本市子ども会育成連合会	
		よしざわ ゆきこ 吉澤 由紀子	女	松本市PTA連合会	
学識経験者	会計	なかじま せつこ 中島 節子	女	松本大学	
公募委員		さかい だ きんいち 坂井田 金一	男	公募	
		スミス まゆみ 真弓	女	公募	
		こばやし じゅんこ 小林 順子	女	公募	
		ふじもり やすはる 藤森 保治	男	公募	



まつもと市民
生きいき活動